

學 報

Kobe College Bulletin

ISSN0389-164X

NO. 171

2014. 7. 4

神戸女学院

学報委員会

「重要文化財 神戸女学院」指定の答申を受けて

理事長・院長 森 孝一



去る5月16日に開催された文化審議会文化財分科会において、神戸女学院岡田山キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計による12棟（総務館、講堂及び礼拝堂／図書館／文学館／理学館／音楽館／体育館／葆光館（ほうこうかん）[中高部1号館]／社交館／ケンウッド館／エッジウッド館／汽罐室（きかんしつ）／正門及び門衛舎）を、国の重要文化財に指定するという答申があったという連絡を受けました。神戸女学院に関わるすべての方々とともに、「私たちの宝」が「国の宝」としても認められたことを、心から喜びたいと思います。

名称は「重要文化財 神戸女学院」です。すでに重要文化財に指定されている建造物の大半が、個別の建物が指定の対象になっているのに対して、今回

の答申では、個別の建物ではなく、「重要文化財 神戸女学院」の名称が示しているように、神戸女学院キャンパスのほぼ全体が指定の対象となっているところに、今回の指定の特徴があると理解しています。

81年前のオリジナルな校舎群が、今なおほぼ完全な形で保存され利用されているのは、神戸女学院の先人たちがヴォーリズ建築を心から大切に思い、その保存と継承のために、大変な努力を払ってくださった結果であると思います。改めて先人たちの愛校心とご努力に対して、心から感謝をいたしたいと思います。

神戸から岡田山へのキャンパス移転のための土地購入は、神戸女学院の同窓会からの寄付によって賄

われました。校舎群の建築費用は、アメリカにおける神戸女学院の支援団体である Kobe College Corporation が、アメリカのキリスト教信徒に呼びかけ募金を行い、70万ドルを神戸女学院に捧げてくださいました。

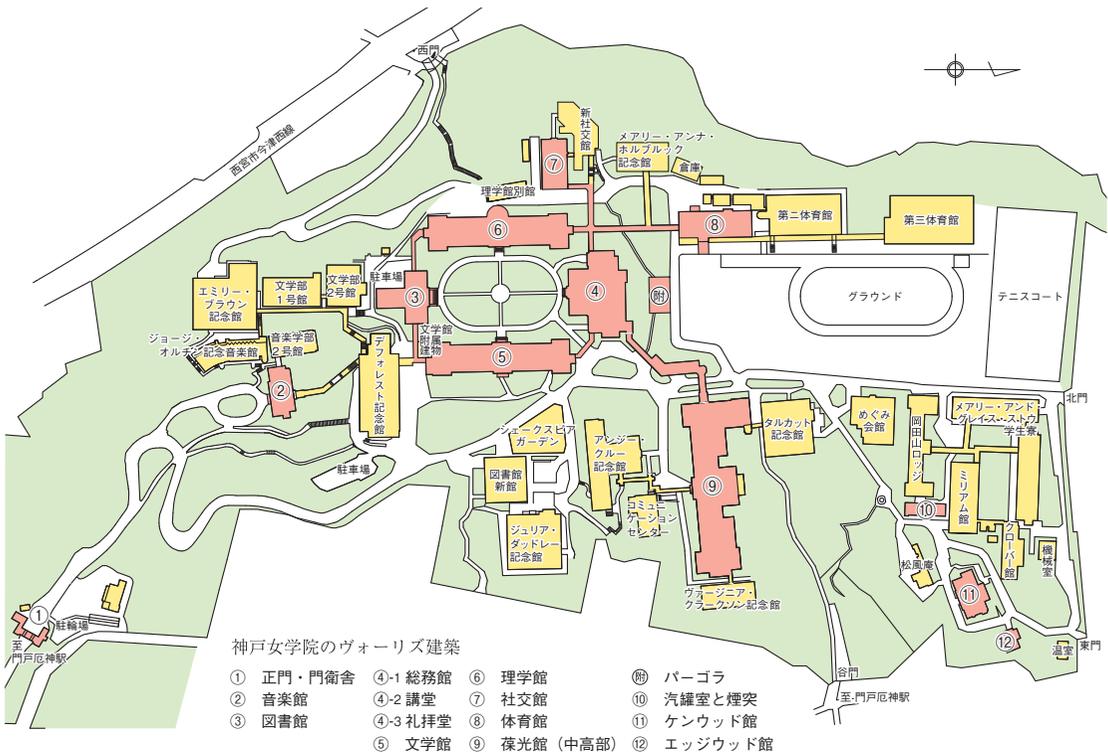
当時の金額で70万ドル（現在の貨幣価値に換算すると約105億円）という潤沢な建築経費を用意することができたことにより、ヴォーリズは思う存分、彼の美的感覚と建築技術のすべてを、神戸女学院岡田山キャンパスの建築のために注ぎ込むことができたのだと思います。

潤沢な建築経費があったからといって、ヴォーリズは贅沢な建物を建築したのではありませんでした。反対に、彼は「豪華すぎるものは醜悪と同じぐらいに好ましくない」という言葉を残しているように、教育施設としての、そして宗教施設としての品性を何よりも大切にしました。「美しい心を育むための品格ある建築」、これこそヴォーリズが岡田山キャンパスの建築において目指したものでした。

ヴォーリズは「均整のとれた建築は、人の心の中に、洗練された趣味と美の観念を啓発する」という言葉を残しています。学生として、生徒として、神戸女学院で学んだ者や、教職員として神戸女学院に関わった者が、「洗練された趣味と美の観念」を共有しているかどうかは分かりません。しかし確信を持って言えることは、ヴォーリズの校舎群と岡田山キャンパスに身を置いた者にとって、ヴォーリズ建築が与えてくれた「洗練された趣味と美の感覚」は、その記憶のなかに鮮明に残り続け、卒業後、年を重ねるにつれて、その記憶は薄まるのではなく、神戸女学院で学んだことの喜びと誇りは、ますます深まっているのではないのでしょうか。

重要文化財への指定を受けることを新たな契機として、神さまから与えられた、このかけがえのない賜物を大切に保存し継承しながら、ヴォーリズが建築によって表現しようとした人格教育を実現する決意を、皆さまとともに新たにしたいと願っています。

キャンパスマップ



一 神戸女学院の建築群 一 重要文化財指定の答申を受けて

学院評議員 石田 忠範

神戸女学院岡田山キャンパス開校当初の建築17棟の内、現存する全ての建築である12棟が、「意匠的に優秀なもの」とする指定基準に該当するとして、重要文化財に指定するよう答申されました。文化財審議会に提出された調査説明書は、次のような文章で結ばれています。

「神戸女学院は、女子高等教育の理念の具現を目指した合理的なキャンパス計画に基づき、台地の地勢や豊かな自然との調和を図りながら、完成度の高い統一感のある建物群で構成されており、昭和初期における学校建築として価値が高い。各々の建物は、様式、意匠、仕様などを基本的に共通させながらも、機能的に求められた空間の独創的な構成や微妙な変化に富む細部の造形で個性を持たせるなど、美的均整の追求と実用への配慮が十全に達成されており、意匠的に優れているといえる。」

重文指定の基準である「意匠的に優秀なもの」との指摘は、単に外見ではなく、学院関係者と設計者が目指した「美と用における均整」という岡田山キャンパス建設の内容が、ここに正しく評価されたものと受け止めています。

2年余り前から、そろそろヴォーリズ建築が重文に指定されても良いのではなからうかということが話題に上るようになりました。その時、何れの建築がその初めであるかということが次の課題となります。

1907年から1950年代に至るヴォーリズ建築事務所のリストによれば、業務としては1400余件を数えますが、建築作品の実数は凡そ800余棟と考えられ、近年において、200棟余りが歴史的建築として受け継がれ維持活用されています。明治学院礼拝堂や大丸心齋橋店など貴重な多くのヴォーリズによる建築作品の内から、まず神戸女学院が選ばれたのは、建築単体ではなく、住まうこととの関係性ともいべき個々の建築の統合による建築群の織り成す空間構成が評価されたものであると理解しています。

昨年の10月に入って、文化庁から重要文化財指定の候補として調査に行くという連絡を受けました。文化庁の調査官を西宮市と兵庫県教育委員会文化財課の担当者の方々と一緒に、朝から夕刻まで正門から住居ゾーンの煙突と汽罐室（旧ボイラー室）、隅々まで案内して歩きました。私の前を歩く2人

が、「指定するとすればどの範囲でしょうね」「全部ですわね」と話しておられるのを耳にして、「全部」という思いがけない展開に、戸惑っていました。

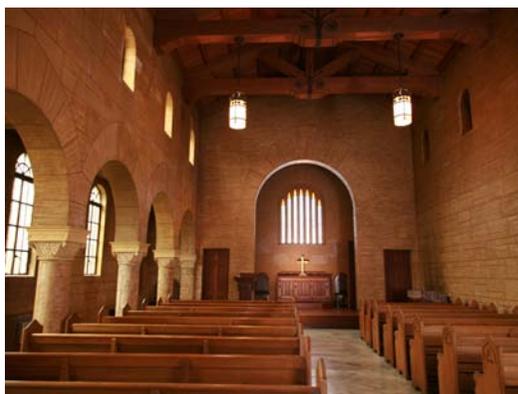
文化財指定を受けるということは、学院だけのものではなく、国の重要文化財として永続的に維持管理していくということであり、手続きが煩瑣になるのではないかという杞憂が、よく分からないだけに不安要素で、以前は「とんでもない」という拒否反応が一般的常識でもありました。この度の答申通知について、学院はこぞって喜びとし、受託されることになったということは、神戸女学院としての歴史的決断であるということができましよう。

建物が大切にに使われ続ける3つの原則があります。どの一つを欠いても成立しません。① Liability：建築には有用性という責任があります。つまり、使い易さが時代の変化に応じて保たれていなければなりません。② Visible Value：価値が誰の目にも分かりやすいこと。③ Cleanliness：日常的な清潔さ、つまり、きれい好きであること。

神戸女学院岡田山キャンパスは創建以来80年間、戦争の時代と台風や地震災害の経験を超えて、この3つの条件が見事に保たれてきました。①は学生数の増加と教育形式の変化に対応した増改築が、当初のマスタープランに従って、変えるところと変えてはならないところを選んで実施されてきました。②は電気や冷房など、時代とともに必要となった設備機器の増設に際して、新しい配管や機械が建築の美を損なわないように意識して配置されてきました。③は日常の手入れや使い方です。ここに住まう人達が揃って、愛し気遣ってこられたことです。

「80年間してこられたことを、今後も続けていただければ良いのです」との、文化庁調査官の言葉に納得した次第です。

(元一粒社ヴォーリズ建築事務所所長)



礼拝堂北面

KCCだより

[Kobe College Corporation (KCC) was established in 1920 in Chicago, Illinois, as a non-profit organization by a group of Christian philanthropists. Its original purpose was to provide financial support for the relocation of the Kobe College campus from Kobe to Nishinomiya. Ever since, KCC has been a strong supporter of the school, both materially and spiritually, creating opportunities for cross-cultural educational experiences for students and teachers. In 2004, the organization added “Japan Education Exchange” to its original name as its activities expanded beyond support for the school. Kobe College has benefited greatly from the generous support of KCC-JEE for many years.]

Julia Dudley has a visitor from South Bend, Indiana

KCC-JEE Board of Directors
Marjorie Kinsey

During my first visit to Kobe College in 1986 I tried to discover more about Julia Dudley than was in the sparse records of Julia's family. Miss Wakayama and Mrs. Ishimura assiduously searched the archives and presented me with a thick folder of material copied from Nineteenth-Century journals. The very first piece was a compelling account from 1875 by an Episcopalian missionary from Osaka who had been invited to visit Julia during one of her regular trips to teach women and girls in Sanda. It provided a lively sense of Julia's work and of her friendly and curious students. I thought no more about the author but wondered instead why there was no mention of the plans for Kobe Home. The article was written in May; the school was to open in October.

A few years later, when I was back in South Bend, a librarian at nearby St. Mary's College told me about a project of his. A professor from Heian Jogakuin had been inquiring across the Midwest for information about one Ellen Eddy. She was considered the founder of St. Agnes/Heian Jogakuin, yet the school knew nothing about her. The librarian decided to check the archives at St. Mary's and discovered that Ellen Eddy had been one of five young women to graduate in the first class of the

college in 1860.

Something made me go to that thick file from the Kobe College archives. Yes, the account that had delighted me was by Ellen Eddy. This woman once lived an easy walk from our house in South Bend, and she had known Julia Dudley! My impression of a lively, dedicated Julia had come from Ellen's description of making visits to hospitals and homes with her, of watching her teach formally and informally, and of her opening her rooms without restraint to those who wanted to be around her.

Ellen had arrived in Japan only the previous November. Ellen and Julia were the same age. What did they talk about when they met? Ellen's descriptions are vivid, but she specifically does not tell what was said during her days at Sanda. She tells her readers that she heard many things of interest which illustrate “what love and faith can do,” but that duplications of conversations do not convey the same sense as the original. She will just provide descriptions of what she saw.

What is she not telling the general readers of this missionary publication? She must have known about the plan for a girls boarding school in Kobe before she visited Sanda. Was her purpose there to gather ideas and inspiration for developing her school in Osaka? The affable Julia would have been willing share her experience.

In this account of May, 1875, Ellen says that there are only four or five little girls in her school. But she seems to have returned to Osaka renewed. By January of 1876, there are fourteen girls in what is now called St. Agnes School. It became a modest boarding school, first in a house and then in an old inn, but never with its own dedicated building before 1881 when Ellen must return to South Bend to tend to her ailing mother.

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (KCC) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のために設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のために、さまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCC はその活動範囲を拡大するために、名前の後に “Japan Education Exchange” という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回執筆してくださったのは、マージョリー・キンジー先生 (Dr. Marjorie Kinsey) です。先生は1986年度及び1998年度に KCC 派遣のプライアント・ドレーク客員教授とし

て神戸女学院で教鞭を執られた美術史家で、その後KCCの理事となられ、長年にわたってKCC-JEEが実施しているプログラム担当の副会長をおつとめくださいました。インディアナ州サウス・ベンドにお住まいで、先生のご夫君、ダグ・キンジー画伯(Prof. Doug Kinsey)は、学院の創立者のお1人、ジュリア・エリザベス・ダッドレー先生(Miss Julia Elizabeth Dudley)の妹さん(Mrs. Mary Dudley Gross)の曾孫にあたられます。]

ジュリア・ダッドレーが迎えた インディアナ州サウス・ベンド出身の訪問者

KCC-JEE 理事 マージョリー・キンジー

()は訳注

初めて神戸女学院に赴任した1986年、私はジュリア・ダッドレーについての記録を探したいと思っていました。(親族にあたる)私たちは彼女についてほんのわずかな記録しか持っていなかったからです。(当時学院の史料室に勤務していた)若山さんと石村さんが熱心に史料探しをしてくださり、私に19世紀の雑誌から複写した記事を集めた分厚いファイルを渡してくれました。その冒頭にあったのは、1875年に、三田在住の女性たちを教えに大阪から通う道すがら、ジュリアを訪ねることになった米国聖公会の宣教師が書いたなんとも魅力的な記事でした。記事にはジュリアの仕事ぶりや人懐っこく好奇心に満ちた生徒たちの様子がいきいきと描かれていました。その時の私は、著者についてそれ以上思いを馳せることはありませんでした。そのかわり、どうして神戸ホーム(神戸女学院の前身)設立計画のことが書いてないのだろうと不思議に思ったのです。記事が書かれたのは5月、学校は10月に開校することになっていたのですから。

数年後、サウス・ベンドに戻っていた私に、近くのセント・メリーズ・カレッジのライブラリアンが、彼が関わっている仕事について話をしてくれました。平安女学院から来ている先生が、エレン・エディーという人に関する情報を求めて中西部各地を巡っているというのです。エレン・エディーはSt. Agnes School/平安女学院の創立者であると考えられているというのに、学院は彼女について何も知らないのだと。ライブラリアンはセント・メリーズの史料を確認することにしました。そして、エレン・エディーが1860年のカレッジ最初の女子卒業生5人のうちの1人であることを発見しました。

ふと思いついて私はあの分厚い神戸女学院史料のファイルを開きました。やはり、そうでした。あの時私を感激させた記事はエレン・エディーが書いた

ものだったのです。彼女は、以前サウス・ベンドの私の家から歩いて行ける所に住んでいて、そしてなんとジュリア・ダッドレーと知り合いだったのです。私が抱えている活発で献身的なジュリア像は、病院や家々を一緒に訪問し、教場であるいは私的に彼女が教える様子、共に居たいと思う人々に自身の居室を解放していたというエレンの記述によって形づくられたものでした。

エレンが日本にやって来たのは前年(1874年)の11月のことでした。エレンとジュリアは同年でした。2人は出会ってどんな話をしたのでしょうか。エレンの記述は闊達ですが、三田滞在中に彼女が話したことについては具体的に記されていません。彼女は「愛と信仰が成し得ること」について意義深いたくさんのお話を聞いたと言っているのですが、繰り返されている会話は、話された内容そのものを伝えてはいないのです。彼女は自分の見解を記述しようとしたのでしょう。

彼女がこの宣教師文書の中で一般読者に伝えなかったこととは何なのでしょう。彼女は三田を訪ねる前に、神戸の女子寄宿学校の設立計画について知っていたはずで、彼女が三田で求めたのは、大阪にある彼女の学校を発展させるためのアイデアや啓示を得ることだったのではないのでしょうか。優しいジュリアは彼女の経験を共有することを喜んだことでしょう。

この1875年5月の記事の中で、エレンは彼女の学校には4、5人の少女たちしかいないと言っています。しかし、彼女は新たな希望を抱いて大阪に帰ってきたようです。1876年の1月までには、現在St. Agnes Schoolとよばれている学校で14人の少女たちが学んでいました。その学校は、最初は1軒の家で、そして古い宿屋でささやかな歩みを始めましたが、エレンが病気療養中の母の看護のためにサウス・ベンドに帰らざるをえなくなった1881年に、まだ校舎はありませんでした。



米国インディアナ州サウス・ベンドの
キンジー邸玄関にて森院長とキンジー夫妻

2014年度愛校バザー

今年度の愛校バザーは、創立者記念日の2日後の5月24日(土)に、絶好のバザー日和に恵まれて新緑まぶしい岡田山キャンパスで盛況のうちに開催されました。例年を超える大勢の来場者を迎えて開会前から人気の売り場前には行列ができ、開会礼拝に続く森院長の開会宣言が終わると同時に売り場の賑いがスタートしました。

5月16日に国の文化審議会が神戸女学院のヴォーリズ建築12棟を国の重要文化財に指定するべく答申を行い、新聞報道があったのが丁度バザーから1週間前でした。報道を見て改めてキャンパスを懐かしく思い足をはこばれた方、またこの際、高い評価を受けた神戸女学院のヴォーリズ建築を一度見てみたいとの思いで見学を兼ねて来場された方々も多かったのではないのでしょうか。いつになく多くの方が大学の中庭で写真撮影をされていました。

バザー会場は来場者と生徒や学生などのスタッフを加えると約6,500人の人たちで賑い、閉会間際まで人波が続きました。予想以上の来場者で早々に売り切れとなった食品売り場もあり、昼食にご不便をおかけしたことがあればご容赦ください。今年もこの会場が久しぶりの出会いの機会になり、また多くの方に初夏の休日を楽しんでいただけたことと思います。

同窓生、PTA、学生・生徒をはじめ関係者の皆様のご奉仕とご協力により、今年も事故なく無事にバザーを開催出来ましたことを心より感謝申しあげます。

(愛校バザー実行委員長)

キリスト教学校教育同盟第102回総会報告



6月6日(金)、7日(土)にキリスト教学校教育同盟第102回総会が神戸女学院で開催され、北海道から沖縄まで全国98加盟校中85校から277名の方々を岡田山にお迎えいたしました。また、前日の5日(木)には同盟の常任理事会、そして理事会と評議員会に加えて、東北・北海道地区協議会総会にも会場を提供いたしました。

天気予報ではこの3日間にずっと雨マークが示されておりましたので、本当に心配をいたしました。時折ばらばらと雨が降らなかったわけではいながら、何よりもその時間だけはと願っていた6日の昼食時とティータイムは、からりと美しい好天に恵まれました。

特別プログラムとして、梅花学園の小坂理事長、松山東雲女子大学・短期大学の棟方学長そして同志社大学の村田学長をお迎えして森理事長・院長の司会で「教育同盟の使命実現に、大規模校に何ができるか」と題して開催されたシンポジウムでは、議場も巻き込んだ活発な意見交換が行われました。

ちょうど、学院のキャンパスを国の重要文化財に指定するよにとの答申を受けてすぐの開催となり、全国からお出ましくくださったみなさまから温かい祝福を頂戴いたしました。

なんとか無事に終了することができましたことをご報告し、学院のみなさまのご協力とご配慮に心より御礼を申し上げます。

(院長室課長)



新任のことば

個人情報保護のため、
7ページ目から16ページ目は削除しています。

人 事

個人情報保護のため、一部削除しています。

学内人事

神戸女学院教育振興会寄付金

同窓生	560件	13,053,000円
在学生	2件	300,000円
保護者（大学・中高）	128件	11,360,000円
学外役員・評議員等	28件	2,240,000円
教職員・旧教職員等	72件	4,582,985円
めぐみ会・企業法人等	23件	7,278,123円
合 計	813件	38,814,108円

(以上2013.4.1～2014.3.31受付分)

個人情報保護のため、一部削除しています。

慶 弔

神戸女学院2013年度決算報告 及び2014年度事業計画

2013年度に実施した事業の内容及び2014年度事業計画の詳細は、『2013年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html>
 また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照下さい。

I. 2013年度神戸女学院決算報告

1. 2013年度決算の概要

まず、収入の部については、大学において在籍数の多かった学年が卒業したことに伴い、在校生数やや減少し、学生生徒等納付金は前年度比80百万円の減となりました。また、私立大学等経常費補助において、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」(大学教育質転換型)に採択され、増額対象となり特別補助は増加したものの、一般補助においては算定基準の変更に伴い減少し、経常費補助は前年度比60百万円の減、一方バリアフリー化整備工事をはじめとする施設整備費補助金等を確保した結果、補助金収入は全体で31百万円の減となりました。しかし、有価証券売却差額として、売却益26百万円を計上するほか、私学退職金財団交付金収入の増(33百万円増)により、帰属収入は52億32百万円(前年度比58百万円減)となりました。

次に、消費支出の部については、前年に引き続き、本年度も定年退職者が多く人件費が高水準で推移し、また、受験生確保を目的に入試広報を強化したことによる広告宣伝費の増加等から、前年度比39百万円増の47億88百万円となりました。

その結果、帰属収支差額は4億44百万円の収入超過(前年度比97百万円減)となりましたが、帰属収支差額比率については8.5%と、目標値である8.8%をやや下回る結果となりました。

一方、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事に伴う建設仮勘定の増加(2億66百万円)や、空調設備改修工事に伴う建物支出(講堂・ソールチャペル30百万円、中高部1号館18百万円他)などの設備投資や、設備投資にかかる借入金返済(42百万円)等に、奨学基金への組入れ1億25百万円を加え、本年度は5億35百万円の基本金組入が必要となり、消費収支差額は、91百万円の消費支出超過、翌年度繰越消費支出超過額は9億77百万円となりました。2014年度には、中高部コムセンターの改修等を計画していることから、今後も更なる繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続き収支均衡に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、学

生生徒等納付金等の減を債券売却収入や私学退職金財団交付金収入の増加によってカバーし、ほぼ前年並みの収入を確保しました。一方、支出の部は、ヴァージニア・クラークソン記念館をはじめとする設備投資に充当したものの(施設関係支出1億57百万円増、設備関係支出28百万円増)、借入金の繰上償還を実施した前年度に比べ借入金等返済支出が減少(1億84百万円減)したため、次年度繰越支払資金は前年度比50百万円増の26億17百万円となりました。

さらに、貸借対照表についてみると、2014年3月末の総資産は前年度比3億96百万円増加し180億92百万円となりました。負債は前年度比49百万円減少し28億81百万円となりました。総資産から負債を控除した自己資金は152億10百万円となり、総資産に占める比率(自己資金構成比率)は2012年度より0.7%改善し84.1%(全国平均85.3%)となりました。

2. 資金収支計算書

2013年度の本学院の資金収支計算書の概要について**前年度決算と対比**しながら以下に記載します。

(1) 収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、大学において在籍学生数の多かった学年の卒業等に伴い在籍学生数が50名以上減少したこと等から、前年度比80百万円の減となりました。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費補助金は減少したものの(60百万円減)、バリアフリー化整備工事をはじめとする施設整備費補助金やIT教育設備整備推進事業費(計46百万円)を計上した結果、31百万円の減にとどまりました。

【資産運用収入】

本年度は市場動向を踏まえ、複数銘柄の債券を売却した結果、利金収入は9百万円減少しましたが、売却益を加味すると、資産運用に伴う収入は前年度比増となっています。

【資産売却収入】

本年度計上分は全て有価証券売却収入であり、市況の動向をふまえて適時に債券を売却し、含み益を実現させた結果、47百万円の収入を確保することができました。

【雑収入】

前年度に引き続き、今年度も定年退職者が多かったため、私学退職金財団交付金収入が前年度比33百万円の増となっています。

(2) 支出の部

【教育研究経費支出】

本年度は、中高部や大学図書館においてシステムのリプレース費用等が計上されており、前年度比で

(表1) 資金収支計算書 (単位: 百万円)

収入の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)
学生生徒等納付金収入	4,151	4,151	4,231	△ 80
手数料収入	82	90	89	1
寄付金収入	61	70	74	△ 4
補助金収入	499	489	520	△ 31
資産運用収入	58	59	68	△ 9
資産売却収入	47	47	0	47
事業収入	92	91	92	△ 1
雑収入	248	248	211	37
前受金収入	817	821	814	7
その他の収入	251	251	228	23
資金収入調整勘定	△1,017	△1,044	△1,034	△ 10
前年度繰越支払資金	2,567	2,567	2,550	17
収入の部合計	7,857	7,844	7,847	△ 3

支出の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)
人件費支出	3,109	3,107	3,097	10
教育研究経費支出	1,063	1,051	1,022	29
管理経費支出	319	301	289	12
借入金等利息支出	4	4	10	△ 6
借入金等返済支出	102	102	286	△ 184
施設関係支出	465	418	261	157
設備関係支出	150	129	101	28
資産運用支出	136	140	138	2
その他の支出	128	130	157	△ 27
資金支出調整勘定	△ 151	△ 157	△ 85	△ 72
次年度繰越支払資金	2,531	2,617	2,567	50
支出の部合計	7,857	7,844	7,847	△ 3

は微増しています。

【管理経費支出】

教育研究以外のために支出した経費は、受験者数確保の強化を図るため、広告宣伝費を増やした(16百万円増)ことなどにより、前年度比12百万円の増となっています。

【借入金等利息支出、借入金等返済支出】

前年度は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済1億22百万円に加え、繰上償還1億64百万円を実施しましたが、今年度は約定返済のみを実施した結果、元本返済額および利息支出額ともに減少しています。

【施設関係支出】

本年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館の新築工事にかかる建設仮勘定支出(2億65百万円)が計上されていることから、International Students Houseの用地購入(1億50百万円)を行った前年度と比べても支出増となっています。

【設備関係支出】

本年度の主な内訳は、中高部IT教室全面リプレイス(15百万円)やMedia Site Live 6(12百万円)などの教育研究用機器備品支出(88百万円)、図書支出(22百万円)、教育研究用ソフトウェア支出(11百万円)です。

【資産運用支出】

本年度の主な内訳は、第3号基本金引当資産支出(1億25百万円)であり、前年度並みとなっています。

3. 消費収支計算書

2013年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

(1) 消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付(0.4百万円)が含まれ、雑収入に退職給与引当金戻入額(2百万円)が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、有価証券の売却益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、予算比10百万円増の52億32百万円となりました。

【基本金組入額】

第1号基本金(学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる)へ4億10百万円を組入れました。主な内訳としては、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事による建設仮勘定の増加(2億66百万円)や講堂・ソールチャペル空調設備改修工事に伴う建物支出(30百万円)などの固定資産取得によるもののほか、借入金返済分42百万円も組入れています。

また、第3号基本金(奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる)へ1億25百万円を組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比1億35百万円増加し、46億97百万円となりました。

(2) 消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出(2億53百万円)を控除し、退職給与引当金繰入額(2億39百万円)を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額(計3億21百万円)を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比28百万円減の47億88百万円となりました。

4. 貸借対照表

2013年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

(1) 資産の部

資産の部は、前年度末比3億96百万円増の180億92百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

(表2) 消費収支計算書 (単位：百万円)

消費収入の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A) - (B)
学生生徒等納付金	4,151	4,151	4,231	△ 80
手数料	82	90	89	1
寄付金	62	70	75	△ 5
補助金	499	489	520	△ 31
資産運用収入	58	59	68	△ 9
資産売却差額	26	26	0	26
事業収入	92	91	92	△ 1
雑収入	250	252	211	41
帰属収入合計	5,222	5,232	5,290	△ 58
基本金組入額合計	△ 661	△ 535	△ 628	93
消費収入の部合計	4,561	4,697	4,661	36

消費支出の部				
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A) - (B)
人件費	3,096	3,093	3,062	31
教育研究経費	1,353	1,341	1,342	△ 1
管理経費	351	333	321	12
借入金等利息	4	4	10	△ 6
資産処分差額	12	15	7	8
徴収不能引当金繰入額	—	0	4	△ 4
消費支出の部合計	4,816	4,788	4,749	39

当年度消費収入(△支出)超過額	△ 255	△ 91	△ 87	△ 4
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 886	△ 886	△ 798	△ 88
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 1,141	△ 977	△ 886	△ 91

帰属収支差額	405	444	541	△ 97
--------	-----	-----	-----	------

【固定資産】

土地・建物・備品などの有形固定資産は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事に伴う建設仮勘定の増加等により、前年度末比2億11百万円増の88億22百万円となりました。

その他の固定資産は、第3号基本金引当資産を積増したことなどにより、前年度末比97百万円増の64億13百万円となりました。

その結果、固定資産は、前年度末比3億8百万円増の152億35百万円となりました。

【流動資産】

流動資産は、定年退職者の増加に伴い私学退職金財団交付金収入等の未収金が増加したことなどから、前年度末比89百万円増の28億57百万円となりました。

(2) 負債の部

負債の部は、前年度末比49百万円減の28億81百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定負債】

固定負債は、短期借入金への振替(1億2百万円)による長期借入金の減などにより、前年度末比1億23百万円減の17億6百万円となりました。

【流動負債】

流動負債は、中高部IT教室全面リプレースにかかる未払金(41百万円)など、設備関連の未払金が

(表3) 貸借対照表 (単位：百万円)

資産の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
固定資産	15,235	14,927	308
有形固定資産	8,822	8,611	211
土地建物	1,323	1,323	0
構築物	4,268	4,326	△ 58
教育研究用機器備品	532	544	△ 12
その他の機器備品	441	445	△ 4
図書	23	25	△ 2
自動車	1,961	1,940	21
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	271	4	267
教育研究用ソフトウェア	6,413	6,316	97
その他のソフトウェア	38	37	1
電話加入権	17	16	1
有価証券	3	3	0
差入保証金	406	426	△ 20
出資	3	3	0
貸与奨学金	19	19	0
退職給与引当特定資産	277	287	△ 10
減価償却引当特定資産	1,456	1,472	△ 16
岡田山建築保存引当特定資産	3,136	3,136	0
第3号基本金引当資産	81	67	14
その他の流動資産	970	845	125
流動資産	0	0	0
現金預金	2,857	2,768	89
現行旅行費預り資産	2,599	2,550	49
未収入金	17	17	△ 0
前払金	229	191	38
資産の部合計	10	9	1
	18,092	17,696	396

負債の部

科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
固定負債	1,706	1,829	△ 123
長期借入金	246	348	△ 102
退職給与引当金	1,456	1,472	△ 16
長期未払金	4	9	△ 5
流動負債	1,175	1,100	75
短期借入金	102	102	0
未払金	156	85	71
前受金	821	814	7
預り金	77	81	△ 4
修学旅行費預り金	17	17	△ 0
負債の部合計	2,881	2,930	△ 49

基本金の部

科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
第1号基本金	14,844	14,434	410
第3号基本金	970	845	125
第4号基本金	373	373	0
基本金の部合計	16,188	15,652	536

消費収支差額の部

科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 977	△ 886	△ 91
消費収支差額の部合計	△ 977	△ 886	△ 91

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A) - (B)
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	18,092	17,696	396

増加したこと等により、前年度末比75百万円増の11億75百万円となりました。

(3) 基本金の部

基本金の部は、前年度末比5億36百万円増の161億88百万円となりました。これは、第1号基本金の増加(4億10百万円)、第3号基本金の増加(1億25百万円)によるものです。

(4) 消費収支差額の部

消費収支差額の部は、支出超過が前年度より91百万円拡大し、9億77百万円の繰越消費支出超過となりました。

II. 2014年度神戸女学院事業計画

1. 今後の運営方針及び2014年度予算編成について

神戸女学院は1875年に創立され、キリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹に、豊かな自然とヴォーリズ建築の校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいて女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。関西で最も長い歴史を持つキリスト教主義学校として、大学ではリベラルアーツ&サイエンス教育を、また中高部は中高一貫教育を実践し、社会に必要とされる女性のリーダーを育成する使命を担ってきました。しかしながら、少子化の進行、グローバル化、また女子の進路志向の多様化など今日の教育環境の急激な変化のもと、本学院においても改革の方向性を一層明確に示しつつ教育の質を担保してゆくことが急務となっています。2014年度も教育の改革、推進に向けて、掲げる重点課題を主眼におきながら、事業計画が有効に進捗するように適切な予算措置を行います。

大学においては、英語教育の強化、リベラルアーツ教育の整備、学修支援環境の充実等を取り組みの柱として多岐にわたる事業計画を遂行します。また、厳しい競争下での受験生確保を促進するために入試関連広報等を一層充実させます。中高部においても、近隣私学の募集形態の変更に伴い、受験生の獲得競争の波に巻き込まれており、広報活動等を一層充実させる必要に迫られています。

施設・設備面では、本年6月に竣工する中高部ヴァージニア・クラークソン記念館(旧2号館)、並びに老朽化のために改修するコムセンターの改修・整備により、中高部の教育、学習環境が大幅に改善されます。また大学関係では、ジュリア・ダッドレー記念館、デフォレスト記念館、図書館、文学部1号館・2号館、理学館別館等で教育・研究環境の整備、建物保全を目的とした改修・設備工事を予定しています。

大学を取り巻く環境が厳しくなる中、収入面において学納金や国からの補助金の増加が見込めない一方で、支出面では、本年4月からの消費税増税や建

物老朽化に伴う修繕費等固定的費用が恒常的に負担となっていくことから、2014年度以降の財政運営は一段と厳しさを増すことが予想されます。2014年度予算編成においては、予算申請内容の吟味と事業計画の優先度の精査に関し各部署にこれまで以上の努力を求め、重点課題の速やかな実現に資する事業に集中して予算配分しています。結果、単年度帰属収支は黒字を確保したものの、必要な基本金組入を行った後の翌年度繰越消費支出超過額は一段と拡大する見通しです。

2015年度からの更なる消費税増税をはじめ固定的経費の負担増等を考慮し、全教職員協力のもと収支構造の見直しを図り、諸経費の削減に努力しつつ、今後とも本学院の教育事業の理想を永続的に実現するための投資を行って参ります。

2. 2014年度予算書

以上の計画を受けて、2014年度資金収支予算書は表4、消費収支予算書は表5のとおりとなりました。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。なお、前年度繰越支払資金、前年度繰越消費支出超過額は、予算編成時の額であり、決算金額とは異なります。)

(表4)

2014年度資金収支予算書
(単位：百万円)

収入の部		
科	目	金額
学生生徒等納付金	収入	4,125
手数料	収入	82
寄付金	収入	49
補助金	収入	458
資産運用	収入	86
事業	収入	91
雑	収入	90
前受金	収入	690
その他の	収入	231
資金収入調整勘定		△ 886
前年度繰越支払資金		2,531
収入の部	合計	7,548

支出の部		
科	目	金額
人件費	支出	2,965
教育研究経費	支出	1,189
管理経費	支出	349
借入金等利息	支出	3
借入金等返済	支出	102
施設関係	支出	264
設備関係	支出	204
資産運用	支出	137
その他の	支出	195
資金支出調整勘定		△ 110
次年度繰越支払資金		2,249
支出の部	合計	7,548

(表5)

2014年度消費収支予算書
(単位：百万円)

消費収入の部		
科	目	金額
学生生徒等納付金		4,125
手数料		82
寄付金		50
補助金		458
資産運用		86
事業		91
雑		90
帰属収入	合計	4,983
基本金組入	額合計	△ 359
消費収入の部	合計	4,624

消費支出の部		
科	目	金額
人件費		2,952
教育研究経費		1,477
管理経費		381
借入金等利息		3
資産処分	差額	12
消費支出の部	合計	4,825
当年度消費収入(△支出)超過額		△ 200
前年度繰越消費収入(△支出)超過額		△ 1,141
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額		△ 1,342
帰属収支差額		158

新刊紹介



澤内 崇(音楽学科教授)

原原道造の詩による女声三部合唱組曲
『黄昏に』

カワイ出版 2013年12月刊
64頁 1,900円+税

この合唱組曲は、澤内崇先生が1988年から2013年の長きにわたって書き続けられた、女声合唱とピアノのための四つの作品からなる。テキストはすべて原原道造の詩によっている。

先生は本学において和声学の授業を担当してこられた。そのためか、四曲それぞれのピアノパートに和声上の特徴が意識されているようである。一曲目「薄明(はくめい)」では冒頭空虚五度で始まり、それを合唱でなぞっていく。二曲目「黄昏に」では付加音の下行形を伴う短三和音の響きで、三曲目「何処へ」では四度和声で、終曲「歌ひとつ」では再びシンプルな三和音のピアノで始まる。また全曲を通じてピアノはしばしばオクターブ・バス音で支えられ、重厚な響きである。これはもちろん女声合唱の伴奏として意識されたことであろう。

合唱パートはオーソドックスだが難易度は低くはない。一定のソルフェージュ能力を求めておられる。音楽学部の専門教育を受けている学生たちに身近で接してこられた先生らしい合唱書法である。

このように、本作は音楽理論教員であられた澤内先生らしい作品なのである。先生はご存知の通り本学の記念歌「Beauty Becomes a College」の作曲者であるが、記念歌は“三位一体”にちなむ変ホ長調(フラット三つ)、三拍子、三連符を含む作曲になっていた。本組曲の意識的な音構造は、いくらかその事を連想させる。

しかしながら音楽自体は陰影のあるロマンティズムの世界である。道造の孤愁の世界に接近しようとしておられる。先生のいつもジョークを交えたお話ぶりからは、このような世界への志向はなかなか想像できなかつた。作家はみな普段人に見せない内面世界に生きているものである。

本作が広く学外でも演奏される事を願っている。

(音楽学科教授 石黒 晶)

新刊紹介

神戸女学院大学石川康宏ゼミナール 著

①



②



①『女子大生のゲンバツ勉強会』

②『女子大生原発被災地ふくしまを行く』

①新日本出版社 2014年1月刊/②かもがわ出版 2014年2月刊

①168頁 1,728円(税込)/②127頁 1,296円(税込)

活発な活動を展開している石川教授とゼミ生たちによる原発問題への入門書である。2020年の東京五輪開催が決まった時、「距離感」というのが物議をかもした。日本オリンピック委員会の理事長が「福島は東京から250キロ離れており」危険はないと言ったのである。この発言が、未だに復興の目処も立たない被災地に投げかけた波紋は大きかった。しかし、関西に住む我々にとって、「福島」は東京の人たちよりも疎遠な存在なのも事実である。現代社会ではこうした距離感がもたらす認識のズレが、しばしば無理解や差別を生んでいる。石川教授が取り組んできた「慰安婦」問題も、近くて遠い隣国との認識のズレが問題なのだ。原発問題について勉強を進めていく中で、学生たちは「福島」ではなく先ず「福井」に着目する(『女子大生のゲンバツ勉強会』)。そして、自分たちの大学と福井の大飯原発との距離が100キロに満たないことを知る。しかも、原発の電気を主に消費しているのは、「福井」ではなく自分たちであるという「消費地元」としての立場を自覚するのである。こうした学びをとおして、原発問題を自らの問題として捉えた学生たちが、いよいよ「福島」におもむいてその現状と課題をまとめたのが『女子大生原発被災地ふくしまを行く』である。

両書ともに平易な文章で書かれているが、しっかりと資料や地元の人々への取材に基づいて、原発や被災地の現状と課題がまとめられている。本書の中で原発に代わり得るものとして紹介されている再生可能エネルギーの普及には、日本独特の気候風土に根ざす多くの解決すべき課題があると思うが、現場での学びを大切にする石川ゼミの今後の研究の発展に期待したい。本学の学生をはじめ多くの人に読んでもらいたい本である。

(環境・バイオサイエンス学科教授 野寄 玲児)

DVD紹介



石黒 晶(音楽学科教授)

オペラ『みすゞ』

HIOC-004 2014年1月上演
131分 3,500円(税込)

1903年(明治36年)に生まれ、1930年(昭和5年)に26歳で夭折した詩人、金子みすゞ、本名、金子テル。本作品は、この詩人の生涯を基にした日本初のオペラです。作曲家の石黒先生にとっても、これまでの生涯における代表作となるでしょう。全体は三幕で構成され、金子テルの女学校卒業から詩人みすゞの誕生、結婚と出産を経て、夫婦生活の破綻と離縁、娘を夫に奪われることに抵抗した証と言われる自殺へ至る壮大なドラマになっています。

序幕は、みすゞの蘇生を喜ぶ嵐から始まります。雷鳴の中にも、緊張を孕んだ清澄で崇高な調べが広がり、全編を通してキーとなる石黒先生の音をはっきり聞くことができます。文学に関わる者として貴重だったのは、「海へ」、「さびしいとき」、「お菓子」、「玩具のない子が」、「打ち獨楽」といったみすゞの詩を、アリアや重唱曲として聴けたことです。特に「海へ」の「みんな行ったきり 帰りやあしない」の詩句を含んだ三幕のフィナーレでは、先祖の列に加わろうとするみすゞ、それを迎える死神=ことだま、異次元の声(合唱)に憑依しながら、それらに憑依された石黒先生の音魂にハッとさせられます。

個人の好みから言えば、作曲された音楽に比して、台本が少し甘く、演出全体がやや過剰という印象を受けました。しかし、指揮者、オーケストラ、出演者たちの情熱は紛れありません。石黒先生ご自身も、何かと苦勞されながら、この4年を超える仕事をアート&エンターテインメントへの挑戦として楽しまれたようにお見受けします。楽曲と声楽のエネルギーを舞台芸術として凝縮した果ての静けさ、透き通った精神を感じさせる音楽のうねり—作曲家、石黒晶が金子みすゞに捧げた讃歌であると同時に鎮魂歌—それこそオペラ『みすゞ』です。

(総合文化学科教授 難波江 和英)

CD紹介

辻井 淳(音楽学科准教授)-ヴァイオリン-
藤井由美-ピアノ-マルティーニ
愛のよろこび 他 全16曲OTAKEN RECORDS 2013年8月録音
3,445円(税込)

チョコレートBOX

人生初のCD紹介が、辻井 淳先生の〈マルティーニ 愛のよろこび〉になった。CDを頂戴し、曲目のリストを見ると、恥ずかしながら、私の知っている曲が数曲しか無い。おまけに作曲家まで。帰宅する車中で待ちきれず、早速聴いてみた。まず、女性的な繊細さを備えた、美しい音で始まった。艶やかな響きはとても心地よい旋律を奏でる。2曲目に収録されている作品は1曲目と作曲家は同じだが、全く違う男性的な力強さを感じた。ピブラートが素晴らしい。初めて聴いたがとても親近感が湧いた。しばらく聴き進めていくうちに、ふと、昔ベルギーへ演奏旅行に出かけた時の事が頭をよぎった。

某オーケストラでの演奏が終わり、土産を探していた。普段あまり甘いものは食べないが、チョコレートは大好き。名前も知らない、街のチョコレート専門店にいろいろな種類が入ったチョコレートBOXを買って帰った。それはそれはカラフルで、あけた瞬間思わず迷うほど、味も、プレゼンテーションも素晴らしかった。今でも鮮明にあの小さな感動を覚えている。チョコレートBOXはこうでなければいけない。箱をあける前から、中身が想像できるような、とてもつまらない、ただの甘い物になってしまうからだ。

辻井先生、彼のねらいはこれだ!と思った。初めて聴く作品が多く集められたこのCDはチョコレートBOXに似ている。ひとつ、ひとつ、彼の確かな技術と、情熱的な音楽性によって、作品に改めて光があてられてゆく。このクオリティーの高さと、こだわりの強さに驚かされた。まだわからないことが多い私の世話役、連絡係、彼の仕事は昨年からは確実に増えている。なのにいつ練習してるんだ?彼の音楽への意識の高さに、同じ音楽家として学ばせて貰うことが多くあった。頻繁に聴いているせいか、もうすぐ2歳になる愛娘が曲に合わせて踊るようになった。彼女のお気に入りには14曲目のディニークラしい。

(音楽学科専任講師 Xavier John LUCK)

その他の新刊一覧

和氣節子（英文学科教授） 他著

『Coleridge, Romanticism and the Orient』

(Bloomsbury)

木村昌紀（心理・行動科学科専任講師） 他訳

『ことばにできない想いを伝える

非言語コミュニケーションの心理学』（誠信書房）

小林知博（心理・行動科学科准教授） 他訳

『社会的認知研究 脳から文化まで』（北大路書房）

河西秀哉（総合文化学科准教授） 他著

『戦後史のなかの象徴天皇制』（吉田書店）

小林哲郎（心理・行動科学科教授） 他訳

『トランジョン』

(PanRolling)

史料室の窓(34)

岡田山キャンパスに込められた思い(4)

婦人伝道会

—女性による女性のための活動—

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

神戸女学院はアメリカのボストンに本部のあった海外伝道団体 American Board of Commissioners for Foreign Missions (通称・アメリカンボード) から派遣された2人の婦人宣教師によって女子のための寄宿学校として創立されました。アメリカンボードはアメリカの各地にある会衆派教会 (Congregational Church) のキリスト教信徒を中心に、人々の寄付によって運営されていた組織でした。このアメリカンボードには婦人伝道会 (Woman's Board) という女性たちが運営する協力団体があり、教会に属する婦人たちが中心となって、キリストの福音によって自分たちが受けている恩恵を、まだそれを知らない世界中の女性たちと分かち合うことを目標にキリスト教活動や募金活動などを主体的に行ない、アメリカンボードが派遣する婦人宣教師の人选や金銭面での支援も行なっていました。婦人伝道会は担当地域によって3つに分けられ、婦人伝道会 (Woman's Board of Missions - W. B. M.)、中部婦人伝道会 (Woman's Board of Missions of the Interior - W. B. M. I.)、太平洋岸婦人伝道会 (Woman's Board of Missions of the Pacific - W. B. M. P.) と呼ばれていました。

神戸女学院の創立者の一人であるタルカット先生 (Miss Eliza Talcott) は WBM の支援を受けていましたが、ダッドレー先生 (Miss Julia Elizabeth Dudley) をはじめ、それ以降の神戸の学校に派遣された婦人宣教師のほとんどは WBMI の支援を受けていました。そのため、特に WBMI は神戸の学校の発展のために尽力してくれました。

第3代校長ブラウン先生 (Miss Emily Maria Brown) の時、神戸英和女学校は女子高等教育を推進する決意を固め、アメリカンボードの承認を得ましたが、この時先生は、教育内容もさることながら、それに見合った設備も必要だと考え、新しい校舎2棟を建てる計画を立てました。そしてその建築資金調達を申し出てくれたのが WBMI でした。当時 WBMI の会長であったスミス夫人 (Mrs. Emily White Smith) は、見たこともない東洋の一女学校のために募金キャンペーンを展開してくれました。このキャンペーンの成果によって、理化学館と音楽館という2棟の校舎を得た学校は、校名を神戸女学院 Kobe College と改称して、リベラルアーツ教育を行なう女子高等教育機関として発展していくことになります。これ以降、WBMI は物心両面において特に神戸女学院をサポートしてくれることになりました。そしてその最大の支援の賜物が神戸女学院岡田山キャンパスです。



講堂入口にある WBMI 記念銘板

ンパスです。

神戸女学院には Kobe College Corporation-Japan Education Exchange (KCC-JEE) という在米支援団体があります。実はこの組織は WBMI から発生したものです。第5代院長デフォレスト先生 (Miss Charlotte Burgis DeForest) の時、学校は学生数の増加に伴ってキャンパス移転を計画しました。この時先生は女子大学を構想して、日本ではまだ制度上認められていない女子のための大学、これが将来認められるときに備えて移転したいと考えたのです。この先生の思いに共鳴してくれたのが先ほど紹介したスミス夫人をはじめとする WBMI の婦人たちでした。この方々を中心となって、神戸女学院を支援するためだけの組織を作ってください、それが KCC (現・KCC-JEE) です。会員たちは教会での募金に始まり、ランチパーティーや様々なチャリティーを催して移転に必要な資金集めをしてくださいました。これによって70万ドル (現在の価値で約105億円) という巨額の資金が用意され、キャンパスが完成しました。

金持ちであるとか、有名人であるとかいう特別な人でない普通のアメリカの婦人たちの、自分たちが受けている恩恵をまだ見ぬ同胞にも与えたいという一つの思いがこのような形となって表れているのです。特別なでない普通の人々のなせる業、神戸女学院岡田山キャンパスは女性による女性のための活動の結果なのです。

<オフィスの宝物>

「企画評価室」の宝物

「企画評価室の宝物」といえば、ズバリ！各部局から集まってくる「貴重な情報」だといえることができるでしょう。その貴重な情報源を基にして、文部科学省をはじめ、大学・教育関連の他大学等の情報を更に集め、本学の戦略的企画推進会議としての位置づけである大学企画評価会議の場において、有意義な議論ができるよう活動しております。

企画評価室の業務の中でも、2015年度には7年に一度の大イベントである認証評価受審が控えております。それに備えて、今年の5月1日を皮切りに提出資料である「点検・評価報告書」をまとめる作業に入りました。毎年、各担当部署においては神戸女学院大学データマネジメントシステム（学内関係者のみ閲覧可能）を利用して、活動計画評価報告書をご作成いただき、PDCA（Plan・Do・Check・Action）サイクルの自己点検・評価を実施しております。これこそが本学の「質の保証」として担保され、類まれなる独自性と優位性を学内外にアピールしていくことができているのではないのでしょうか。

このように、本学教職員が英知を結集して、本学の強みである世代を跨いで持続的な発展していくことへのプロセスを支えていける部署として活動していきたいと考えております。それには各部局のご協力は欠かせません。「貴重な情報」を集約して、現実の大学運営に適切に反映していくことができるよう引き続きよろしくお願いいたします。

(企画評価室)



各部局等から集まった「貴重な情報（資料）」

体育研究室の宝物

体育研究室は、第一体育館北側にあります。大学1年生必修科目「健康スポーツ科学」と2年生以上選択科目「生涯スポーツコース」の授業関連業務を中心に担当しております。

体育研究室の宝物は、体育館でしょうか。大学の授業を実施する体育館は、第一体育館と第三体育館がありますが、ここでは昭和8年岡田山移転時に建てられた第一体育館についてご紹介致します。

『岡田山の五十年（1984年神戸女学院発行）』によると、設立当時の名称は、第4代ソール院長の出身地ミシガン州に於いて新キャンパス設立のための募金運動に尽力したD・L・ガダード夫人（Mrs. Dwight L. Goddard）の名を記念してガダード体育館であったと記されています。その後名称は、第二体育館、第三体育館の設立に伴い旧体育館、大学体育館、現在の第一体育館と変わってしまいました。しかし、人間の心身の調和ある発達ということに目標を置いて生涯その為に尽力された婦人医師であったD・L・ガダード夫人の思いは、現在も変わることなく引き継がれていることと思います。

今後もこの体育館で学生の皆さんが、授業やクラブ活動を通して心身ともに健康な学生生活を送られることを願っております。

(体育研究室)



第一体育館

大学報告

ロルフ・プラッゲ教授 ピアノリサイタル

岡田山がまっ白に雪化粧した2月14日、モーツァルト音楽大学（ザルツブルク）のRolf Plagge教授によるピアノリサイタルをめじらウンジで開催しました。

Plagge教授は二度目の来校、インターネットを使ったピアノレッスンを年4回実施するなど、本学の協定校であるモーツァルト音楽大学の馴染み深い先生です。今回も到着直後からマスタークラスをされるなど、精力的な3日間を過ごされました。

リサイタルはモーツァルト「ピアノソナタ K. 330」の華麗な演奏で幕開き。細やかなニュアンスが一音一音に散りばめられ、息を呑むような軽やかさで会場を魅了しました。続くフランス現代作曲家、デュティユの「ピアノソナタ」では、色彩豊かな煌めくようなピアノリズムに圧倒されたひと時でした。そしてリストの最高傑作の1つである「ピアノソナタ 口短調」。長大でスケールの大きなこの作品でPlagge教授は、祈りのようなpppから怒涛のようなfffまで壮大な世界を実現しました。めじらウンジの小型スタインウェイピアノが限界を超えた瞬間を垣間見ながら、私達はその迸り出る情熱と音響の渦に巻き込まれていきました。

終演後の茶話会では、お客様や学生・教職員と和やかな歓談のひと時を持ちました。「また是非演奏して欲しい」「次回はできればフルコンサートグランドピアノで!」。多くの方々が先生との再会を願い、熱い期待が寄せられました。

(音楽学科教授 佐々 由佳里)



第7回心理相談室シンポジウム 「つなぐ、結ぶ、親の心と子の心」開催

さる2月23日(日)に西宮市大学交流センターにおきまして「つなぐ、結ぶ、親の心と子の心」をテーマに、第7回臨床心理士による地域実践を考えるシンポジウムを開催しました。一般の方々、また子育て支援従事者、院生等多くの方々にご参加いただきました。心理相談室では地域との連携を深め臨床心理士による支援の開発を目指し毎年シンポジウムを開催しています。今回は親子の間の気持ちのずれやコミュニケーションの不全に着目し、親子の心をつなぎ結び直すことに向けた支援について、3人のシンポジストを迎えて考えました。まず兵庫県私立幼稚園協会理事長の濱名浩氏からは、母親同士がつながり、親が安心し自信をもって子育てに臨むことの大切さと、園長としての取り組みを紹介いただきました。続いて本学のカウンセリングルームのカウンセラーでもある松本聡子氏より、家庭支援研究会の一員として続けて来られた学齢期子育て支援講座の活動を紹介いただき、その経験から母親が自分自身を受容することで親と子が共に成長できることをお話しいただきました。最後に、本学人間科学研究科教授の國吉知子氏は昨年本学心理相談室に導入した親子相互交流療法を紹介し、その実践経験から親が親らしく振舞えるようになることで子どもが子どもらしくなることを示していただきました。三者の提言を踏まえ、親への働きかけの重要性とそのための様々な工夫についてフロアも交えて議論しました。

(人間科学研究科心理相談室室長 石谷 真一)



フロアを交えてのディスカッション風景

音楽学科舞踊専攻公演

去る3月6日、7日に兵庫県芸術文化センター中ホールにて音楽学部舞踊専攻第8回定期公演が行われました。最初の作品は毎年1、2年生によって踊られる Here we are! です。

入学して一年足らずの学生がコンテンポラリー要素の高いこの作品を踊りこなすというのはかなり大きなチャレンジですが、2年生と助手の本間非常勤講師の指導のもとその大きな壁を乗り越えていく姿は毎年繰り返される光景とはいえ我々に清々しい感動を与えてくれます。2作品目の Bardo は難易度の高い作品ですが、今年の3年生はそれを見事に踊りこなしました。2部の最初の作品は1、2年生の為に今回新たに振付をされたグラハム・マッケルヴィー先生による Songs for the Top of Mountains で力強い中にもマッケルヴィー先生ならではの優しく繊細な情景があり、1部で Here we are! を踊った1、2年生とはまた違った側面をお見せ出来たと思います。そしてプログラムの最後は4年生の為に私が創りました Blue Farewell です。本学での学びを終了しそれぞれの道に巣立っていく学生たちとの別れは「おめでとう！」という喜びの気持ちと同時に「もう二度とこのメンバーと一緒に汗をかくことはない」という寂しい気持ちに私をさせます。そんな思いを舞踊にしました。卒業式を終え今この原稿を書いていても彼女たちの顔が目には浮かびます。色々な試練が待ち受けていると思いますが、幸せな人生を歩んでくれることを心よりお祈りしております。

(音楽学科教授 島崎 徹)

人間科学研究科に
理科教職課程が開設されました

人間科学部環境・バイオサイエンス学科では、2010年4月に、中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)が取得可能な理科教職課程が開設されました。2014年3月に無事1期生が卒業し、中学校理科教員として奉職している者もいます。

引き続きこの4月より、人間科学研究科博士前期課程環境科学分野に、中学校・高等学校教諭専修免許状(理科)が取得可能な理科教職課程が開設される運びとなりました。学部で一種免許状を取得した院生が、所定の科目を履修すれば、新たに専修免許状を取得できます。当研究科では、このたびの開設に向けて、新規に「植物生態学特論」、「環境分子生物学特論」、「分析化学特論」、「溶液科学特論」、「基礎物理化学特論」を開講するなど、柔軟に対応しています。

自然科学の進歩発展が著しい今日において、高度な専門性を有した理科教員の養成は、教職課程を有する大学院の急務です。研究の過程で修得した実験技術や、英語原著論文の読解力は、理科を指導する際、十分役立ちます。最近の学校現場では、教科書の範囲を超えた課題研究や、自然科学の内容を英語で教える科学英語など、多彩な科目が用意されており、とても一種免許状の実力で太刀打ちできるものではありません。きちんと対処できるのは、専修免許状を有する教員でしょう。

教職課程の担当者として、人間科学研究科の修士生から、多くの優れた教員が輩出されることを期待しています。

(教職センターディレクター

環境・バイオサイエンス学科教授 中川 徹夫)

Microscale Experiment on Decreases
in Volume When Forming Binary Liquid
Mixtures: Four Alkanol Aqueous Solutions

Tetsuo Nakagawa

1 Introduction

The basic physicochemical properties such as mass, molar mass, amount of substance, volume, and their combinations (e.g., density, molar volume, molar density, molar mass, molar volume, molar mass, amount of substance, and molar mass) are a necessary part of teaching the full-on solution chemistry consisting of dissolution, solubility, concentration, solute-solvent interaction in solution, phase diagrams, colligative properties such as freezing point depression, boiling point elevation and osmotic pressure, partial molar volume, and so forth for high school (e.g., Carmichael, 2010; Deter, 2008; Inoguchi et al., 2010; Nakagawa, 1995; Nakagawa et al., 2007; Nakagawa et al., 2007) and university first grade (e.g., Brady & Holum, 1993; Inoguchi et al., 2010; Nakagawa, 2000, 2010) chemistry classes. Therefore, it is of great importance that the characteristics of response properties are well understood by students when they begin to learn the concept of solution.

The simple model of binary liquid mixture is shown in Fig. 1. Here, open and solid circles represent components 1 (solvent) and 2 (solute) respectively, and in real liquid mixtures both are different in size and shape. Intermolecular interactions between 1-1, 2-2, and 1-2 are also different, and consequently volumes in liquid mixtures are not equal to the estimated ones from their components on the

This work is partly supported by a Grant-in-Aid for Scientific Research (KJ 20020718 from the Japan Society for the Promotion of Science and by a Research Grant from Osaka Science Foundation.

T. Nakagawa (✉)
Department of Bioprocess Sciences, School of Bioprocess Sciences, Kobe College,
4-1 Chikudate, Nakatonsu, Naga 650-8585, Japan
e-mail: nakagawa@mail.kobe-u.ac.jp

M.-H. Chu et al. (Eds.), *Chemistry Education and Sustainability in the Global Age*, 335
DOI 10.1007/978-94-007-4802-6_20 © Springer Science+Business Media Dordrecht 2013

「溶液科学特論」の授業で使用するテキスト

(出典：T. Nakagawa, "Microscale Experiment on Decreases in Volume When Forming Binary Liquid Mixtures: Four Alkanol Aqueous Solutions," *Chemistry Education and Sustainability in the Global Age*, Springer, Dordrecht, 2013, pp. 335-346.)

リベラルアーツ& サイエンスプログラムの設置

神戸学院大学は、2014年4月、従来の副専攻制度である、地域創りリーダー養成プログラム、キャリアデザインプログラム、通訳・翻訳プログラムに加え、新しい副専攻プログラムとして、リベラルアーツ&サイエンスプログラムを設置した。これにより、2014年度以降の入学生は、所属する学科で専攻する学問分野とは異なる領域の専門的学修が可能となる。

本学は、文学部、音楽部、人間科学部という3学部構成であり、人文科学、社会科学、自然科学から芸術までの分野が整っている。また各学科で提供されている専門分野は19分野にのぼる。本課程は、これらのうち学修したい分野の一つから専門科目を20単位以上履修した場合、これを副専攻として認めるものである。学生は、希望する学科からアドバイスを受け、分野を選択することができる。たとえば、作曲を学びたい英文学科学生は、一定の条件を満たせば、これを音楽学科学生と同じ条件で学修することができる。

社会や心理、環境や生命、芸術や文化、言語等の諸学問の発展が目覚ましい今日、さらに地球の諸地域が密接に結びついて複雑さが増す今日において、その諸問題に立ち向かい、未来を切り開く力を養うためには、複数の分野にわたる体系的な知識の修得、論理的思考力、多角的で柔軟な考え方の鍛錬は必須である。本プログラムはこうした今日の社会の要請にこたえるものである。

(教務部長 溝口 薫)



文学部総合文化学科、日本古典文学の
授業の一コマ

新しい共通英語教育が始まりました

4月より新しい共通英語教育がスタートいたしました。新1年生(英文学科以外)は週に4回の授業を受けています。

日本人教員による科目 Reading and Writing English (週2回)では、*A Portrait of Kobe College* (本学をテーマにしたテキスト)を使い「文法」の復習と「精読」をしています。テキストの語彙はスマートフォンで音声を読みながら学習を進めています。同時に図書館新館に Graded Readers と絵本を約1,600冊購入していただき「多読」も始めました。また全ての英語学習を記録できるように工夫した「英語手帳」を学生が常時携帯し、各自の英語学習を自己点検するという試みもいたしております。

外国人教員による Communication in English、Communication in English (II) (各週1回)ではコミュニケーションスキルの基礎・発音のルールを学んでいます。また様々なテーマの動画を視聴できる *English Central* (eラーニング教材)も導入いたしました。

さらに、英語能力の高い学生を対象にした English Honors (I) も始まりました。現在6名の1年生が2年生後期からの留学をめざして週2回の授業に取り組んでいます。

なお、English Zone、English Caféでは、毎日お昼休みに英会話を楽しめる空間を提供しております。

皆様のご協力のおかげで第一歩を踏み出すことができましたことを心より感謝いたします。

(共通英語教育研究センター教授 川越 栄子)



A Portrait of Kobe College と英語手帳を用いた授業

カウンセリングルーム30周年記念特別講演会

わしだ きよかず 鷺田清一先生「弱さについて」

カウンセリングルームは1984年に学生相談室として設立され、今年で30年を迎えます。その記念の講演会が5月30日(金)の14:00~15:30に講堂で行われました。来場者は700人近くにも上り、講堂だけでは入りきれないほど盛況でした。講師には哲学者であり前阪大総長の鷺田清一先生をお招きし、「弱さについて」をテーマにお話いただきました。先生は、^{おやま}女形として活躍している坂東玉三郎氏や、80歳を超えてなおお見事に少女を演じる舞踏家の大野一雄氏などの例を挙げ、「その役をするのに最も遠いところにいる人が一番それらしく演ずることができる」という話から、欠けているもの、足りないもの、できないことがあるという弱みを自分で知っている人ほど強くなれるという逆説的なお話をしてくださいました。先生のお話は、哲学は本来日常の中にあって誰もが疑問に思ったり考えたりしていることを、平易でわかりやすい言葉で考えるべきという考え方から、難しい哲学用語などを一切使わず、とても馴染みやすいものでした。また、生まれたときから右肩下がりの世の中しか経験してきていない今の若い人たちは、自信や信頼や希望を持ちにくくなっているというお話は、大学教育に携わる者にとって肝に銘じておかなければならないことだと思います。カウンセリングルームでは、弱さをマイナスととらえがちな学生さんを、これからも支援していきたいと改めて思いました。

(カウンセリングルーム)



大学春季宗教強調日礼拝

(創立者記念日礼拝)

燃えるようなツツジの中、今年も愛校週間と春季宗教強調日礼拝をまもりました。創立者イライザ・タルカット先生の誕生日である5月22日(木)を含む1週間を愛校週間としてまもり、チャペルアワーでは大学の3人のチャプレンの先生方と卒業生であり英文学科准教授の白井先生に、永久標語「愛神愛隣」についてなど、愛校週間として大切なお話をうかがいました。22日当日は学生、同窓生、教職員の数名で再度山の外人墓地にあるタルカット先生の墓前にて礼拝をまもり、引き続き山本通りにあった神戸女学院最初の校地である神港学園を訪問しました。週末5月24日(土)は愛校バザーを開き、神戸女学院について思いを馳せる1週間でした。

23日(金)は春季宗教強調日礼拝を創立者記念日礼拝としてまもり、飯学長より「創立者イライザ・タルカット先生(1836-1911)―神戸女学院建学の祈り―」と題してご講演いただきました。タルカット先生のご家族の歴史から始まり、影響を与えた出来事、などを通して、ミッションステートメントに書かれた「…置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、…、共感性の高い人格…」(神戸女学院大学ミッションステートメントより抜粋)という学生像の背景をお話しくださりました。

タルカット先生は一つの所にとどまって何かを為したのではなく、隣人の呼びかけに応答して、いろいろな場で、思いを尽くして行動されました。先生は、自分のためではなく、隣人の喜びのために自らの生涯を捧げ、この日本で生涯を閉じられました。飯先生は、タルカット先生の歩みから、ミッションステートメントの言葉をより深く理解し、日々の生活を通して自分を磨き、隣人の思いを理解しそのために行動できる「共感性の高い」人格へと成長できるように努めてほしいと締めくくられました。

(チャプレン室)

家庭会大学部会総会報告

個人情報保護のため、
32ページ目から33ページ目は削除しています。

2014年度 大学・大学院入学試験結果概要

●大学

学部	学科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	140	174
	総合文化学科	200	218
音楽学部	音楽学科	46	37
人間科学部	心理・行動科学科	90	101
	環境・バイオサイエンス学科	80	100
合計		556	630

●大学〔編入学（3年次）〕

学部	学科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	0

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻（英文学コース）	5	2
	英文学専攻（通訳・翻訳コース）	8	3
	比較文化学専攻	5	5
人間科学研究科	人間科学専攻	10	11
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	9
合計		35	30

●大学院（博士後期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	1
	比較文化学専攻	2	—
人間科学研究科	人間科学専攻	2	3
合計		6	4

2014年度 在籍学生数

(2014年5月1日現在)

●大学

学部・学科 (専攻)	文学部			音楽学部	人間科学部			合計	
	英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオ科学科	小計		
1年	14000	174	218	392	37	101	100	201	630
2年	13000	163	217	380	52	96	89	185	617
3年	12000	174	234	408	38	104	94	198	644
4年	11000	152	213	365	49	103	97	200	614
	10000	18	18	36	5	7	2	9	50
	09000	3	2	5	2	0	2	2	9
	08000	0	2	2	0	0	1	1	3
	07000	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	684	904	1588	183	411	385	796	2567	

●科目等履修生

学部	人数
大学部	7
大学院	0

●聴講生

学部	人数
大学部	3
大学院	7

●大学院修士課程・博士前期課程

学部・学科 (専攻)	文学研究科			人間科学研究科	音楽研究科	芸術表現科	合計
	英文学	比較文化学	小計	人間科学	音楽学	芸術表現	
1年	1400	5	5	10	11	9	30
2年	1300	4	5	9	10	4	23
	1200	0	1	1	1	0	2
	1100	1	1	2	0	0	2
	1000	0	0	0	0	0	0
	0900	0	1	1	0	0	1
合計	10	13	23	22	13	58	

●博士後期課程

学部・学科 (専攻)	文学研究科			人間科学研究科	合計	
	英文学	比較文化学	小計	人間科学		
1年	1400	1	0	1	3	4
2年	1300	1	0	1	1	2
3年	1200	1	1	2	1	3
	1100	0	0	0	0	0
	1000	0	0	0	0	0
	0900	0	0	0	0	0
合計	3	1	4	5	9	

2013年度就職決定状況

学 科	卒業生数	希望者数	決定者数	決定者数／ 希望者数	大学院 進学者数
英 文	159	128	122	95.30%	10
総合文化	223	188	181	96.30%	9
音 楽	52	17	15	88.20%	12
心理・行動	95	71	67	94.40%	8
環境・バイオ	83	71	67	94.40%	6
合 計	612	475	452	95.20%	45

(2014年4月末現在)

大学生を取り巻く就職環境は厳しい状況が続いていましたが、景気の緩やかな回復とともに、業種にはよるものの企業の採用意欲も高まりを見せ、全体的に改善されつつあると言えます。本学2014年卒の就職決定率（就職希望者に対する決定者の割合）は95.2%で、リーマンショック後一時期下がった決定率も、昨年からまた安定した数字を取り戻してきました。

そのような中、決定者数の多い企業は次のとおりです。三菱東京UFJ銀行（19）、三井住友銀行（11）、全日本空輸（9）、ダイキン工業（4）、みずほフィナンシャルグループ（4）、アメリカンファミリー生命保険（4）、高見（4）。

分散化傾向にあった業種別就職先の割合は、金融が24.6%で3年ぶりに2割を超えました。航空は例年一定の希望者がありますが、今年は客室乗務員と地上職併せて20人が、その夢を果たしました。職種別では事務系が56%で半数を超え、営業・販売27.7%、サービス9.3%、専門職7%と続いています。また大学院への進学者数が45人とこの10年間で一番多かったことも、2013年度進路状況の特徴と言えます。

現4年生は就職活動真ただ中ですが、企業の採用意欲は引き続き高く、早期に学生を確保する動きが強まっています。まだ良いご縁に巡り会っていない場合も、ペースは人それぞれです。焦らず諦めず粘り強く続けていくことで結果はついてきます。

また、経団連「採用選考に関する指針」により、現3年生から企業の採用選考のスケジュールが変更され、学生たちの就職活動も3カ月後ろ倒しとなります。時期が遅くなることで就職に対する意識付けや準備は遅れがちですが、活動が解禁となった際にスムーズに動くことができるよう、準備期間の使い方はこれまで以上に重要になります。

就職活動は、学生生活でどう考えて行動し、それが自身の成長にどう繋がったかをプレゼンする場とも言えます。これから将来を考えていく方も、学内外での学びや活動に積極的に取り組み、自分自身の引き出しを増やしていきましょう。

(キャリアセンター課長)

建設業

竹中工務店／積水ハウス／大和ハウス工業

製造業アシックス／朝日スチール工業／イトーキ／イトキン／宇仁織
維／オンワード樞山／杏林製薬／共和薬品工業／月桂冠／神戸
風月堂／コニシ／サラヤ／ジェイテクト／シュゼット／ダイキン
工業／大昭和精機／大東精機／TONE／白鶴酒造／ファミリア
／フォクシー／ミキハウス／三ツ星ベルト／MeijiSeika ファ
ルマ／ロックベイント情報通信・出版業エス・ティ・ティ・ドコモ／スミセイ情報システム／日本総合
研究所／パナソニックインフォメーションシステムズ／USEN運輸業全日本空輸／日本航空／ANA エアポートサービス／ANA 大
阪空港／ANA 関西空港／ジェイエア／マツダロジスティクス
／ダイシン物流／上組／神姫バス／西日本旅客鉄道／新日本海
フェリー卸売・小売業旭化成商事／岩谷産業／サンコーインダストリー／ジェイア
ール西日本商事／JFE 商事鉄鋼建材／島村楽器／神鋼商事／セ
リーヌジャパンカンパニー／タキヒヨー／立花エレテック／東
レインターナショナル／トラスコ中山／阪急リテールズ／阪和
興業／ヒラキ／不二化学薬品／富士貿易／MonotaRO／ユアサ
商事／ワールドストアパートナーズ金融・保険業日本銀行／みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行／三
菱東京UFJ銀行／関西アーバン銀行／紀陽銀行／山陰合同銀
行／但馬銀行／中国銀行／南都銀行／百十四銀行／広島銀行
みなど銀行／ゆうちょ銀行／三菱UFJ信託銀行／尼崎信用金
庫／大阪シティ信用金庫／北おおさか信用金庫／但陽信用金庫
／西兵庫信用金庫／播州信用金庫／あかし農業協同組合／兵庫
六甲農業協同組合／兵庫県信用農業協同組合連合会／あいおい
ニッセイ同和損害保険／ソニー損害保険／東京海上日動火災保
険／三井住友海上火災保険／日本生命／アメリカンファミリー
生命保険会社／三井生命保険／SMBC 日興証券／SMBCフレ
ント証券／大和証券／丸三証券／クレディセゾン／三井住友
カード不動産業スウェーデンハウス／三井不動産リアルティ／三井不動産レジ
デンシャルサービズ関西飲食店・宿泊業

大阪ヒルトン／大和リゾート／帝国ホテル

医療・福祉医療法人恒昭会 藍野病院／医療法人社団明石医療センター／
医療法人亀廣記念医学会 関西記念病院／医療法人社団正峰会
／医療法人高和会 宝塚第一病院／社会医療法人渡邊高記念会
西宮渡辺病院／社会医療法人弘道会 守口生野記念病院／独立
行政法人労働者健康福祉機構／日本赤十字社兵庫県支部教育・学習支援業

大阪大学大学院 医学系研究科／GABA／黒崎楽器／浜学園

複合サービス事業

生活協同組合コープこうべ

サービス業MYJ／SMBC センターサービス／三井住友トラスト・ビジネス
サービス／住友三井オートサービス／クラウドディアコス
チュームサービス／高見（TAKAMI BRIDAL）／国際航空旅客
サービス／JTB 関西／トップツアー／サントリーパブリシ
ティサービス／リクルートジョブズ／一般財団法人大阪府公園
協会公務

大阪市／加西市／篠山市／猪名川町

2014年度 キャリアサポートプログラム (予定)

【3年生対象】

2014年

- 4/25(金) インターンシップガイダンス①
 6/ 6(金) インターンシップガイダンス②
 6/13(金) 就職ガイダンス
 6/27(金) 就職試験対策セミナー
 7/ 5(土) SPI 模擬試験①
 7/11(金) 就活体感セミナー①
 7/18(金) 就活体感セミナー②
 7/25(金) 就活体感セミナー③
 7/30(水) インターンシップマナー講座
 8/ 4(月)～6(水) 就職文章力アップ講座 *有料
 8/25(月)～29(金)
 KC エアラインスクール *有料
 8/27(水)～29(金)
 自己分析・コミュニケーションセミナー
 9/16(火)～19(金)
 SPI 集中対策講座 *有料
 10/ 3(金) 企業の採用動向についてのセミナー
 10/17(金) 職種研究セミナー
 10/18(土) SPI 模擬試験② (一般常識含む) *有料
 10/31(金) 就活マナー対策セミナー
 11/ 7(金) 筆記試験対策講座
 11/21(金) 履歴書の書き方セミナー
 11/28(金) エントリーシート対策講座①
 12/ 5(金) エントリーシート対策講座②
 12/13(土) SPI 模擬試験③ (一般常識含む) *有料
 12/19(金) グループディスカッション対策講座
 12/20(土) グループディスカッション対策講座
 実践編

2015年

- 1/24(土) エントリーシート直前対策講座
 *有料
 2/ 9(月)～13日(金) 模擬面接講座①
 2/18(水) SPI 直前対策講座
 2/20(金) 中小企業の探し方セミナー
 2/25(水) 企業紹介セミナー：
 卒業生が在籍する企業について
 2/27(金) 就職ナビの使い方セミナー

2月～3月に以下を実施 (日程未定)

- グループディスカッション実践対策講座①
 模擬面接講座②
 エントリーシート実践対策講座①
 採用担当者による仕事研究セミナー
 学内企業セミナー
 グループディスカッション実践対策講座②
 模擬面接講座③
 エントリーシート実践対策講座②

その他

- KC キャリア塾 (後期)
 金融業界特別セミナー (後期)
 4年生による就職活動体験報告会 (前・後期)

【4年生対象】

- キャリアカウンセラーによる個別面談
 (水・金 予約制)
 スタッフによる個別面談 (月・木 予約制)
 相談、エントリーシート添削は随時
 模擬面接実践講座
 (4月22日・30日、5月14日・16日)
 ※前期以降は個別サポートが中心

【2年生対象】

- 7/ 4(金) 進路ガイダンス
 12/12(金) 就職ガイダンス

【1年生対象】

- 7/ 4(金) キャリアガイダンス①
 12/12(金) キャリアガイダンス②

【学年不問】

- 6/30(月) アナウンサーを目指すには？
 7/31(木) エアラインセミナー
 11月頃 留学と就職についての説明会

【資格講座開講】

- ・秘書技能検定講座 2級・準1級 春期・秋期2回
 実施
 ・TOEIC 対策講座 春期・夏期集中講座
 ・公務員受験対策講座 春期・夏期集中講座

2013年度 大学図書館報告

1. 統計

• 蔵書数

	2013年度受入	2013年度末現在
和書	2,075点	250,910点
洋書	794点	168,929点
合計	2,869点	419,839点
A V資料	4点	3,860点

• 2013年度貸出状況

学 生	教職員	外来者
21,141冊	3,181冊	1,489冊

• 2013年度相互利用

	文献複写	図書貸借	閲覧	照会
依頼	802件	67件	17件	5件
受付	462件	47件	10件	10件

2. 受入図書

• 教育資料費による購入図書

Risk (全4巻) ほか 計4タイトル

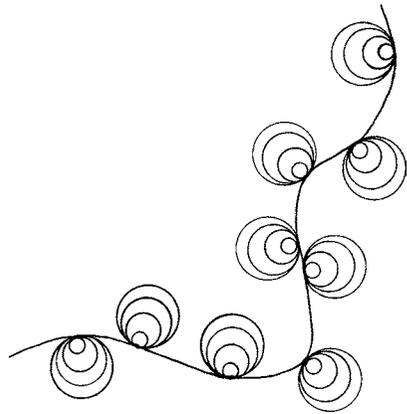
• 寄贈図書

The first four centuries of music for the organ from Dunstable to Bach (1370-1749) (全2巻)
ほか 計16冊

3. その他

• クラス別ガイダンス 44回実施

(大学図書館課長)



<受入れ留学生報告>

私の留学生活

広東外語外貿大学交換留学生

もう留学生活は残りわずかとなってしまった。思い返すと、この一年間はとても短かったように思う。体感として短くはあったが、色々な国の人と出会い、共に勉強や生活をし、文化や生活習慣などのさまざまな違いを身近で感じることができた。私の人生にとって、とても大切な経験

だと心から思う。

実は神戸女学院大学に来る前は、不安でいっぱいであった。一人暮らしは大丈夫か、寮でみんなと仲良く過ごせるのか、色々心配した。しかし、この大学に来てから、そのような不安はすっかり解消された。国際交流センターの行き届いた配慮や、寮の先生たちの親切なご案内、面倒をみってくれるパディたちの手伝いなどにより、家族のような温かな雰囲気を感じられた。私は恵まれた環境の中で楽しく留学することができた。

勉強の面からみれば、文学研究科では少人数制により、学生同士は親しくお互いの研究を支え合い、教員は個々の学生に合わせた指導を行うため、自分の研究も順調に進めることができた。また、院生の授業のほか、興味のある学部の英語の授業も受けた。たとえば、English Workshop という授業では、グループに分かれてディスカッションしたり、育った国や文化について率直に意見を交わしたりと、貴重な時間を過ごすことができた。

勉強の他、学校主体のイベントにも多数参加した。西宮祭りや、京都有着物体験ツアー、山口小学校の訪問などにも積極的に参加し、充実した生活を送ることができた。休みの時私は時々旅に出た。歴史感を持つ京都と奈良、賑やかな大阪、開放的な神戸、自然が多く綺麗な沖縄…旅によって日本地域の諸相が見られ、視野も広がった。

今回の留学を通して、語学力以外の部分で得ることのほうが多かった気がする。この留学でしか得られなかったこと、それは自分の目で日本社会を見、自分の耳で日本人の考えを聞き、自分の身で日本文化を体験する、つまり、異文化に浸かり、それを通じて自分や社会を見つめなおすことではないかと私は思う。この貴重な留学経験を学んだことを将来生かしたいと思う。

<留学報告>

ミリアム大学

ミリアム大学に留学して

文学部 英文学科 3年生

私は、約5ヶ月間フィリピンのミリアム大学で学びました。語学学校ではなく普通の授業をミリアムの学生と一緒に受けました。フィリピンには公用語が2つあり、一つは英語でもう一つは現地の言葉であるタガログ語です。フィリピン人は英語とタガログ語の場合に応じて使い分けていますが、彼らも初めから英語を話すことができるわけではなく、幼稚園の頃から親や先生が英語を話し教えることで早い段階で話すことができるようになっています。英語とタガログ語の両方を話すフィリピンならではの英語教育の在り方を知り、日本の英語教育と比較し見つけ直すことができました。

また、私は環境の授業も受けました。フィリピンには様々な環境問題が存在し、実際にリサイクルセンターに足を運んだりフィリピン人自身がどう考えているのかを知ることができ、それもフィリピンやミリアムで学ぶことの魅力の一つだと思いました。他にも、個人的にボランティアに行き、学校外でも様々な問題についての学びを深めることができたと思います。私はこの留学を通してフィリピンの英語教育やフィリピンに存在する様々な問題を知ることができ、また日本を客観的に見るできるようになって、考え方も大きく変わったと感じています。

最後に、この素晴らしい留学の機会を与え支えてくださった家族、先生、友達、国際交流センターの皆様など全ての方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



フィールドトリップ後に行った先生の家でクラスメイトと

<中期英語留学報告>

チャタム大学

チャタム大学留学を終えて

文学部 英文学科 3年生

私がアメリカで過ごした約7か月間はとても濃く、一生思い出に残る日々でした。

8月21日から3月7日の間、私はペンシルバニア州ピッツバーグにあるチャタム大学で寮に住みながら語学学習に励みました。クラスは留学生向けのものが主であったため現地の子との交流というのはいりませんでした。しかし寮にはアメリカ人を含めたくさんの国からの学生が住んでいたため、予想もしていなかった程の数の他国の友達ことができました。アメリカやブラジル、サウジアラビア、ベネズエラ。他にも数えきれないほどの友達が世界中にいます。しかし、最初からすぐに充実していた訳ではありません。どれほど英語で話せる環境でも、自分から話す勇気がなければ得るものはいりませんでした。最初は緊張もしている上に、自分の英語にも自信がないためなかなか話しかける事が出来ませんでした。しかし日々過ごす中で、「自分から話しかけて私の性格を分かってもらってこそ仲良くなれるし、相手も話かけてくれる」「日本語よりも正確に自分の感情を言葉で伝えられない分、嬉しさは特に、態度や表情で的確に表す事が大切だ」と気付かされました。ふざけ合い、時には真剣な話もできるこの大切な縁はこれからも連絡を絶やさぬ様、私の宝物の1つにしていきたいと思います。

最後になりましたが、私たちの留学をサポートしてくださった多くの皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



school trip にブラジルの友達と参加した時

<中期海外研修報告>

クイーンズランド大学

多くの変化をもたらしてくれた留学

文学部 英文学科 4年生

私は昨年度の約7か月間、オーストラリアのクイーンズランド大学で語学留学をしてきました。6か月間は語学学校での英語習得、残りの4週間は現地企業でインターンシップを経験しました。

語学学校での生活で、私は自らの日本へ対する無関心さに気づくことができました。授業ではよくディスカッションの時間があつたのですが、その度に「日本はどう?」とクラスメイトに尋ねられます。彼らは自国のことを知り尽くしているにもかかわらず、私は答えられないことが多々あり、恥ずかしい思いをしました。自国のことを知らないなど、なんておかしなことだろう、とようやく気づき、変わることができました。

私は教育機関でインターンをしていただきました。最も印象的だった出来事は、ファイリングを任された際に、2千枚ほどあるファイルの並び方が効率的でないと感じ、少し生意気かなとは思いつつも、私が考える効率的な並び方を提案し、全て並べ直したことです。すると、「仕事の効率が上がった」と多くの社員の方々から声をかけていただきました。ここでは本当の同僚のように扱っていただき、「働く」楽しさを知りました。

私は英語だけでなく、様々な文化・価値観を知り、視野が広がり、凝り固まった考え方をしないようになりました。また、一生付き合っていけるようなかけがえのない友人もできました。この留学は、私にさまざまな変化を与えてくれた、とても価値のあるものでした。



インターンシップ先の社員の方々

カリフォルニア大学アーバイン校

留学生活を振り返って

文学部 英文学科 3年生

私は自分の留学先に、カリフォルニア大学アーバイン校を選びました。このプログラムの魅力は、一定のレベルに達すると語学学校の授業に加えて、大学の講義を受講できるという点です。

私は半年間の留学でたくさんのことを学び、たくさん失敗を経験しました。その経験から、語学を習得する上で大切だと学んだのは積極性です。留学に行ったからといって自動的に英語が上達するわけではありません。また、語学学校に通うだけではネイティブの人と出会う機会はなかなか多くはありません。そこで私は、様々な機会に積極的に、参加することでたくさんの良い経験をすることができました。私は、週に一度は教会に行き、地域の方々と交流を深めたり、カンパセーションパートナー（週に一回会って英語の練習をしたりする制度）と出掛けたりしました。このおかげで、本当に仲のよい友人をたくさんつくることができました。

また、この留学では、最後まで自分で成し遂げる力も身に付きました。私は、アジア系アメリカ人についての講義を大学で取っていましたが、授業や課題が大変で、期末テストが終わった後にはなんとも言えない達成感を味わいました。追い込まれすぎたりして、本当に辛いときもありましたが、それも含めては良い経験だと思えます。

最後に、留学という、私にとってとても良い機会を与えてくれた神戸女学院、そして、色々な面で支えてくれた両親に本当に感謝しています。ありがとうございました。



教会で知り合った友達とお泊まり会

<語学研修報告>

ヨーク大学

かけがえのない日々

人間科学部 バイオ・サイエンス学科 2年生

私は春休みの4週間、イギリス・ヨーク大学での語学研修に参加しました。ヨークは本当に素敵な街です。歴史のある建物や美しい街並みはもちろん、とても優しくあたたかい人々であふれていました。大学では素敵な先生方に恵まれ、授業は理系の私にとってはどれも新鮮でした。リサーチや課外授業でヨークの街などにくらぶことも多く、イギリスの文化や歴史、人々を肌で感じることができました。また、4週間と時間は限られていたので後悔しないよう、様々なことにチャレンジしました。これらの経験は、私に度胸と積極性を与えてくれました。また、ホストファミリーとの生活では、旅行では分かりえない多くのことを学ぶことができました。とくに、17歳のホストシスターと過ごした時間は忘れられません。おしゃべりをしたり、DVDを見たり、宿題や折り紙を一緒にしたり、彼女と過ごした時間は本当に楽しかったです。イギリスでたくさんの素敵な人たちに会えたことで、もっとうまく聞きたい・伝えたい、もっともっと話したいと思うようになり、その思いが私の英語の上達を助けてくれたのだと思っています。

研修を通して、自分の世界観が変わり視野が広がりました。それとともに、まだまだ自分の知らない世界があるということに気づきました。イギリスで過ごした4週間は私にとって誇りであり宝物です。イギリスで、そして日本からこの研修を支えてくれたすべての方々に感謝したいです。ありがとうございました。



お世話になった先生と

梨花女子大学

私が出たもの

文学部 英文学科 3年生

梨花女子大学での語学研修は、授業がすべて韓国語で、毎日の授業がとても楽しみでした。ネイティブの発音を毎日聞くことができるので、韓国語のシャワーを毎日浴びているようでした。新しい単語もどんどん覚え、実際に日常生活で使う機会がたくさんあったので、授業で習ったフレーズを使って言いたいことが伝わったときは、格別に嬉しかったです。

また、研修を通して自立もでき、自分自身の自信にもつながり、もっと勉強したいという意欲に変わりました。積極的に韓国語を話すことにより普段の観光では体験できないことや、多くの人に出会えたことがこの研修で得た私の財産です。食堂のおばさんやお店の人とは、韓国語と日本語を教えあえる、お互いにとっていい関係の友達になることができ、コミュニティの幅が広がりました。発音をほめられたり、友達になってほしいと言われたりした時には、辞書を使いながら韓国語で必死に伝えようとした思いが相手にもきちんと伝わっているのだと実感することができ嬉しかったです。

この研修に参加をして、さらに韓国語を勉強したいという思いが強くなりました。できれば半年か一年間、留学をして本格的に韓国語を勉強したいと考えています。まずはハングル検定3級取得という目標に向けてしっかりと頑張っていきます。そして日常会話を韓国語でもできるようにしたいです。貴重な体験をさせていただき、感謝しています。



修了証書

クイーンズランド大学

大きな前進

文学部 英文学科 2年生

1年前からFacebookを英語で書き始めたり、学校でネイティブの先生や留学生に話しかけたりと、英語を話す機会を作るために一生懸命だった私にとって、オーストラリアで毎日大好きな英語に触れられた5週間は、とにかく嬉しくて幸せな日々でした。

私は受験生のとき、ロンドンオリンピックに魅せられて国際大会で通訳をしたいという夢を抱きました。その1年後、東京オリンピックが決まったことで夢は大きくふくらみ、そしてその半年後にこの語学研修で、様々な国籍の友人ができました。母国語が違う友人と話す際には英語の威力を感じ、たくさんの国や文化を学びました。例えば、ベネズエラ人のクラスメート。出会った日の帰りのこと、私が「また明日ね」と言って帰ろうとすると、急に近づいてきて頬にキスをしようとしてきました。恋人でもなければ出会って1日目の相手に、なぜこんなことをするのと衝撃を受けましたが、南アメリカ大陸の国ではこれはほんの挨拶に過ぎないようです。将来国際大会で働きたいといいながらも地理や文化に疎かった私は、それについても勉強したいと思い、帰国後勉強を始めました。ひとつひとつ夢への段階を踏んでいるという感覚は大きな収穫です。私は高校生のときから長期留学をすると決めています。そのためにはTOEFLやIELTSの高いスコアが必要です。目標を達成するためには大変なこともあると思いますが、ここで見た景色をもう一度見たいという思いが、大きな支えになると確信しています。



UQでのお昼休み。クラスメートと一緒に。

<私の研究>

紡ぎ出されたことばの世界へ

藏中 さやか



古典文学は書記文化の発展とともにその歴史を重ねてきました。諸作品は、日本人の考え方や時代の価値観・風潮を映す鏡です。わたしが研究対象にしている和歌は、歌集や歌合、秀歌撰の他、物語や軍記物、随筆、紀行文、謡曲

などさまざまなジャンルの作品にも含まれ、その表現内容はわたしたちの心の原風景ともいえるでしょう。研究で扱う事柄は、詠作機会、作者はもちろん、表現の典拠、ことばの解釈や当時の評価など、一語・一首をめぐる問題や、歌集全体の成立・伝播に関わる問題、一歌人の交遊関係や生涯、そして歌学びの在り方やそれを支えた書籍類にまつわる問題など、多岐にわたります。

これまで共同研究という形で藤原清輔の和歌一字抄の校本や源頼政の歌集、藤原定家と慈円の文集百首の注釈書を刊行した他、個人では、大江千里集や和歌一字抄の研究、藤原定家の和歌と漢詩に関わる問題、完本の伝存しない頓阿法師の歌集の一部の紹介と検討などをおこなってきました。中古・中世という時代に成立した作品を主要研究対象としていますが、近世初期にそれらがどのように受容されていたのか、という点にも関心があります。研究の際に大切にしているのは、実際に写本を見るということです。書誌学的な視点からも本文を捉えてこそ初めて明らかになることがあると考えています。

現在、科研費による助成を受けて歌題集成書に関する研究を継続中です。和歌は、眼前の事物への詠嘆や恋情などだけでなく、提示された歌題によっても詠まれました。誰がいつどんな歌題を出題したのか、またそこにはどのような規範性があつたのかといった問題に関わるのが、歌題集成書という一群の書物です。その存在意義や書承関係の解明などを通じ、和歌史の一隅を掘り起こすことを目指しています。

(総合文化学科教授)

私の研究—Squibとは？

松尾 歩



神戸女学院大学の英文学科に入学し、高校の時には全くなじみのなかった言語学という分野に初めて出会いました。幼い時から英語を習い、また中学、高校ではスペイン語も勉強していた私は外国語が大好きで、やっと自分の打ち込める学問を見つけてとっても嬉しかったのを覚えています。けれども言語学の基礎知識が十分無かった当時は研究に対して、憧れはありましたが、どこから手を付けていいのやら。それでも3、4年生になると図書館で専門書を読んではこんな研究もあるのだな、と思っていました。そして、初めて研究という機会が与えられたのは、アメリカの大学院に行った時のことです。統語論のクラスで、Squib (スクイブ) を書くように、という宿題が学期末に出ました。Squibなんて変な音の単語で、意味も分からないし、英語でエッセイを書くのも疑わしかった修士の1年生のことです。Squibとは、あるトピックについて、何本かの論文を読んで、その論文が解ききれなかった問題に対して疑問を投げかける場所でした。担当の教授も「疑問を投げかけるだけでいいんだ。答えを見つけろとまでは言わないから」とおっしゃるのですが、これがやってみると難しく、夜遅くまで論文は読むのですが、なかなかペンが進まない日が続きました。だいたいどの論文を読んでも有名な言語学者が自分の理論こそ正しい、と書かれたものなので、それを読んで問題点を提起するなんて、駆け出しの大学院生には無理なのでは、と思ったのですが、大学院に6年もいるうちに、Squibも書けるようになってきました。そして、今研究を始める時にもそのSquibを書いていた時の習慣ができて、まず先行研究での問題点を見つけてそれを解くために実験をしたり、理論を考えたりしています。すべて研究の原点はSquibにあったのだ、ということが分かりました。

(英文学科教授)

<ゼミ紹介>

福島を訪ね、原発・エネルギー問題を考える

石川 康宏

3・11の大きな衝撃をきっかけに、2012年から原発・エネルギー問題に取り組んでいます。2年間の学習の成果は、14年1・2月に出版した『女子大生のゲンパツ勉強会』『女子大生原発被災地ふくしまを行く』という2冊の本にまとめました。

手さぐりでの学びでしたが、13年9月には福島大学のみなさんの協力を得て、4月に一部が「避難指示解除準備区域」に指定された浪江町にも行ってきました。もちろん放射線量の低い一角にしか足を踏み入れることはできませんでしたが、それでも放射能汚染のため一切復興の手がつけられず、船やクルマがころがり、大きながれきの山が放置され、津波に中をえぐられた建物がそのまま残されているのは、実にショッキングな光景でした。町役場では副町長のお話もうかがいましたが、「福島を忘れないでほしい」「いまからようやく復興をはじめねばならない町がいくつもあることを神戸や大阪のみなさんに伝えてほしい」との訴えは、深く胸にささるものでした。

被災地の復興をどう支援し、この国のエネルギー政策をどう組み立てていくべきか。日本最大の原発密集地である福井県の間近にあり、大飯原発から90°しか離れていない本学にとって、このテーマは避けられない重要課題のひとつだと思っています。太陽光発電など、開発と普及が進む再生可能エネルギーにも注目しています。

(総合文化学科教授)



福島市内の果樹農園の方と

人形遊びを介して幼児の心に触れる試み
～石谷ゼミの紹介～

石谷 真一

心理・行動科学科では3回生から2年間同じ学生メンバーでゼミを行います。学生は授業で教員の専門性を知った上でゼミを選択します。私は「発達臨床心理学」という講義を担当していますので、乳幼児や児童・青年の心の発達や、親子関係が子の発達に及ぼす正負の影響などに関心を持つ学生が集まってきます。ゼミ生は毎年12～13名で、ほぼ毎年1～2名が大学院に進学します。こうしたゼミ生の志向性や私自身の専門性から、ゼミでは子どもの心に触れる体験を提供しようと考え、タイトルにある人形遊び技法という臨床心理学の手法を学ばせ、幼稚園に訪問して園児に行うという活動を続けています。人形遊び技法とは、子どもが日常よく直面する葛藤を人形を用いて演じて見せ、その続きを自由に作らせるというものです。ゼミ生はまずこの技法を写真にあるようなロール・プレイを繰り返して習得します。また事前に幼稚園に訪問して園児の普段の様子を知り、園児とも触れ合う時間を持ちます。その上で、園児とゼミ生が1対1でこの人形遊びに取り組みます。この技法は子どもの遊戯的表現を通してその心を理解するものですが、園児の思わぬ反応にゼミ生は戸惑ったり、いろんな感情を体験します。自分の感情反応も子どもの心を理解する手掛かりになることを振り返りの際にゼミ生に話します。卒業論文でも幼児や遊びをテーマに取り上げ、参加観察や面接などでデータを集める研究が多く見られます。

(心理・行動科学科教授)



人形遊び技法の練習風景

<課外活動紹介>

[クラブ]

裏千家茶道部

部長

私たち裏千家茶道部は、毎週水曜日と金曜日の10時から15時まで松風庵で活動しています。今年は、14名の新生と出会うことができました。お稽古では、神戸女学院茶道部の卒業生である先生方に教えていただいています。

今回は5月24日(土)に行われました、愛校バザーでの茶会について書かせていただきます。愛校バザーでは鵬雲斎大宗匠のお好みで、知新棚というめずらしいお棚を使ってお点前をしました。お茶盃は、青菽で清雅造のものを使い、お棗は茶道部の旧師からいただいた、この季節にぴったりのかきつばたの模様で華正造の八ッ橋蒔絵の平棗を使用しました。当日はたくさんの方々にお越しいただき、とても良い1日となりました。私たち部員にとっても大変貴重な経験となり、今後のお稽古に生かしていきたいです。

茶道では、お道具、お花、お菓子などを通して四季を感じることができます。例えば、夏の風炉の季節には、涼しげな水の音を楽しむ、洗い茶巾のお点前や、寒い冬になるころには、炉開きを行い四季の移ろいを感じます。茶道を通して学ぶことは、茶道だけにとどまらず日常生活の様々なこととも繋がっているように感じます。今後も茶道を通して多くのことを学んでいきたいです。そして何より、いつも温かくご指導くださる先生方やOGの方々、自然の豊かな神戸女学院で茶道ができることへの感謝を忘れずお稽古に励みたいと思います。



愛校バザー茶会

[クラブ]

チアリーディング部 VENUS

VENUSは週に3回、火曜日、木曜日、土曜日に、第1体育館で練習しています。チアリーディングという少し大変だという印象をもたれるかもしれませんが、現在の部員はほぼ全員、初心者からはじめました。今ではたくさんの技ができるようになり楽しいです。新しい技ももっとたくさんできるように日々頑張っています。

活動内容は主に、アメリカンフットボールの試合の応援、クラブ紹介や岡田山祭、愛好バザーでのパフォーマンスです。岡田山祭と愛好バザーでは屋台もしています。秋には合宿もあります。

アメリカンフットボールの応援は大阪教育大学の応援をさせていただいています。大阪教育大学とは交流もあり、仲良くさせていただいているため、応援にも一層気持ちはいります。今年の秋リーグからは、加古川の社会人チーム「オズナス」の試合の応援もさせていただく予定です。

みんなとても仲が良く、楽しい部活です。初心者も大々大歓迎です。体育館でお待ちしております。



新歓のとき

中高部報告

第8回全国高校生英語ディベート大会 in 長野 優勝チームメンバー 駐日アメリカ大使を訪問

昨年末の英語ディベート大会で優勝した現高等学校3年生チームのメンバー4人は、主催団体の全国高校英語ディベート連盟（HENDA）で公式審判をされている方の仲介で、4月3日に、キャロライン・ケネディ駐日アメリカ大使に面会することになった。まず丸の内ではジェイ・ポナゼッキ在日米商工会議所会長にお目にかかり、国際関係や女性のキャリアについて話しあった。生徒達は国際法など法律に興味を持っていたので、弁護士としてもグローバルな活躍をなさっているポナゼッキ氏から、多くのことを学んだようだ。次に経団連の建物に移動し、社会広報本部 副本部長の長谷川知子氏と約1時間面談した。高等学校・大学時代にディベートで活躍された長谷川氏は、ディベートの技術が現在のキャリアに大いに役に立っていると熱く語ってくださり、生徒たちも大いに刺激を受けた。

最後に赤坂へ移動し、HENDAの副会長である松本茂立教大学教授と合流し、厳重な警戒体制の中、所持品審査や身元確認の後、会議室でケネディ大使を待った。大使は、ご自身の子育て体験を気さくにお話しくださり、日本の教育制度、生徒たちの進路希望、長野とスロベニアのディベート大会での活躍の様子などを質問され、生徒たちの説明を熱心に聞いてくださった。和やかな雰囲気の中、あっという間に予定の15分が過ぎた。大使と直接会話を交わし、励ましの言葉をかけていただき、皆、感銘を受けて帰途についた。

(中高部長)

スロベニア国際ディベート大会出場報告

昨年12月の英語ディベート大会優勝校として、国際大会出場推薦を受け、3月6日～8日スロベニアのリュトメルで開催された国際大会に1チーム（3名）が参加しました。討論形式がまったく異なるため、連盟手配の複数のコーチの指導をうけ、大会へも2名のコーチを同伴しました。

3月4日離日、5日首都リュブリャナ空港着、2時間移動して、ブドウ畑の広がる丘陵地の宿舎に到着しました。翌日昼から、地元の高校で、開会式に続いて、予選リーグ戦が始まりました。スロベニア、クロアチア、チェコ、フィンランド、英国、米国などから40チームが参加し、アジアからは本校のチームのみでした。予選試合のうち、3つは1時間前に論題が発表になる即興形式、3つは事前に発表されていて準備していった論題でした。例えば「すべての企業は取締役会に女性の定数を確保すべきである」「欧州議会の選挙投票を義務化すべきである」などです。本校のチームは、準備していった論題の試合はすべて勝つことができ、ジャッジにも理論構成をほめていただきました。優勝、準優勝のチームは、英語を母国語とする国のチームでした。

短い期間でしたが、試合の合間に他国の生徒と話もでき、また二日目の夕方には、宿舎での自国紹介の交流イベントで、本校の生徒たちは浴衣を着て、大好評でした。準備段階もふくめ、このような得難い経験ができましたことを、お世話になったすべての皆様に感謝申し上げます。

(中高部英語科)

ヨーロッパ女子数学オリンピックの報告

高等学部 3年生

私は4月9日から17日にトルコのアンタルヤで開催されたヨーロッパ女子数学オリンピックに日本代表として参加させていただきました。そのことについて報告させていただきます。

日本選手団は選手4人に付添いの方々5人と大変力が入っていました。空港につくと1国1台のリムジンが待っており、滞在先もリゾートホテル、待遇の素晴らしさに驚きました。そして試験本番。4時間半で3問のテストを2日行います。しかし1日目は非常に苦戦し1問しか解けず、テスト終了後大変落ち込んでいました。他の選手も同じだったようで、みんなで気晴らしにビーチに行きました。そして背水の陣とばかりに気合を入れて2日目のテストに臨みました。するとその日は全ての問題で答えが出て証明も完成し、よい気分でテストを終えられました。次の日は採点を待っている間、遺跡や滝に行ったのですが、結果が気がかりで落ち着かない1日を過ごしました。結局点数は期待していたほど得られず答えがあっていた問題でも証明で減点され非常に辛い点数となりました。その結果念願の金メダルは逃したのですが、なんとか銀メダルをいただくことができました。この結果はひとえに強化合宿で私を鍛えてくださったチューターの方々、合宿に参加した高校生、財団の方々、そして答案を何度も添削し質問に答えてくださった中高部の先生のおかげです。この場をお借りして感謝します。本当にありがとうございました。



中高部図書室報告

I. 2013年度の主なできごと

(1) 蔵書点検 2012年7月11日～23日

II. a 2012年度増加図書冊数(資産化図書)

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	10	0	0	10
洋書	0	0	0	0
合計(冊)	10	0	0	10

b 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減(資産化図書)

2013年度 増加数	10
2013年度 除籍数	1,376
蔵書数(冊)	9,380

c 消耗図書費の蔵書冊数の増減

2013年度 増加数	2,286
2013年度 除籍数	5,503
蔵書数(冊)	59,771

III. 2013年度貸し出し冊数

J1	5,464
J2	2,485
J3	2,170
S1	1,692
S2	732
S3	418
教職員	458
大学生・大学院生	46
その他	0
合計(冊)	13,455

貸し出し日数 201日 1日平均 67.0冊

(中高部図書室司書教諭)

2014年度中学部入学試験結果報告

募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	214	211	153	141

日程：2014年1月18日(土)・20日(月)

2014年度中高部転・編入学試験結果報告

	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
J転入学	1	1	1	1
S編入学	1	1	1	1

日程：2014年1月28日(火)

(中高部事務室)

2014年度中高部受け入れ留学生

本年度は、タイからの AFS 留学生を、4月から来年の2月のはじめまで、S2Cに受け入れています。彼女は、すでに2年間日本語を学んできており、日本文化への関心も高く、意欲的に日本語の勉強に取り組んでいます。一見大人しく見えますが、スポーツも大好きで、その他積極的にいろいろな活動に参加しようとしています。ギターが弾けるので、軽音楽部に入り、お友達もできました。文化祭では、母国タイの紹介展示をしてくれる予定です。

(中高部英語科教諭 留学生係)

タイ AFS 生

はじめまして。タイから来ました。今S2で勉強しています。4月にこの学校に来てから、いろいろ新しい経験をしたり、おもしろい体験をしたり、とても楽しい毎日を過ごしています。この学校に来ることができて、本当によかったです。友達も先生方もとてもやさしくて、いろいろなことを手伝ってくれます。何でも一緒にしてくれて本当にありがたいです。日本にいる間に、たくさんの日本の文化を体験したいです。そして、日本語をたくさん勉強して、もっと上手になりたいです。どうぞよろしくお願ひします。



2013年度学校評価について

個人情報保護のため、
49ページ目から50ページ目は削除しています。

中高部 P.T.A. 報告

個人情報保護のため、
51ページ目から52ページ目は削除しています。

J1 デイキャンプ報告

今年も例年通り4月1日、2日に、新J1にとって最初の学校行事であるJ1 デイキャンプが行われました。

今年のキャンプテーマは「よりどりみどリーむ!」。このテーマには、学年カラーが「緑」である新J1の一人一人に、よりどりみどりの夢を描きながら楽しく充実した6年間を過ごしてもらいたい、という上級生からの願いが込められています。

キャンプに向けての準備は、この上級生たちによって、本番の6か月前から着々と進められてきました。上級生は、数年前の自分自身の経験も踏まえてじっくり議論を重ね、様々な改善を行い、今年ならではの新たな企画もしました。

そして迎えた当日。朝から見事な晴天に恵まれ、満開の桜のもと、春を全身で感じながらのキャンプのスタートとなりました。最初は緊張した面持ちであったJ1も、上級生のリードにより、あっという間に顔がほころんでいきました。芝生の上での昼食という開放的な雰囲気も、後押ししたのではないかと思います。2日目も1日目同様晴天に恵まれ、今年も天候に左右されることなく、2日間を通してすべてのプログラムを予定通りに終えることができました。

学年カラーの緑で描いた、クラスごとの大きなジグソーパズル。そして各ピースに書き込んだそれぞれの抱負。自分自身が描いた夢を胸に、新入生一人一人が6年間で大きく成長していってくれることを期待しています。

(ディレクター)

春の修養会報告 大阪水上隣保館訪問

イースター前日の4月19日(土)に大阪水上隣保館を訪問し、隣保館の子供たち28名と交流しました。18日(金)は雨で予定されていた遠足が延期され、20日(日)も時々雨という天気でしたが、19日(土)はやはり快晴でした。本校生徒から112名の応募があり、その中から83名に絞り、当日欠席が1名で、82名が参加しました。引率教員は4名でした。

9時に大阪駅を出発し、9時50分に礼拝堂で開会礼拝を守りました。その後、教員よりこの行事の歴史と意義、大阪水上隣保館の沿革等についての詳細なお話がありました。その後、本校生は2~4名のグループに分かれ、11時に保育園に向かいました。そこで、子供たちと出会い、心を込めて作って来たお弁当と一緒に食べ、遊びました。本校生が子どもたちと真剣に向き合っていることが、傍からも読み取れました。昨年と同じく、7名の保育園の先生方に教員が自宅で焼いて来た焼肉とキムチを召し上がっていただきました。

13時に保育園へ子供たちを送った後、閉会礼拝を守りました。そして、1日の総括を行った後、山崎駅まで歩きました。どの生徒も非常にさわやかな顔をしていました。山崎駅から大阪駅へ向かう電車内では、眠っている生徒もいました。がんばった生徒たち一人一人に心の底から拍手を贈りたい気持ちでいっぱいです。

(中高部教諭)

春の遠足

爽やかな春の日差しの中、4月25日(金)に春の遠足が行われました。学年ごとに六甲山系の異なるコースを歩きました。

J1：布引→外国人墓地で墓前礼拝→諏訪山公園

J2：長峰→六甲山牧場→摩耶ケーブル

J3：鈴蘭台→再度公園→諏訪山公園

S1：油コブシ→高山植物園→六甲ケーブル

S2：諏訪山公園→森林植物園→谷上

S3：王子公園→摩耶山掬星台→布引ハーブ園

新しいクラスの仲間たちと親睦を深める良い機会となりました。

(保健体育委員会)

54ページ目から56ページ目は削除しています。

春の子ども会報告

去る4月29日に春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童養護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす、伝統ある行事なのですが、今回は6施設の子どもたちを招待しての開催となりました。今年度も会場は神戸女学院。本校では、高等学部自治会の役員が中心になって、関西学院の男子学生とともに入念な打ち合わせと準備を重ねてこの日を迎えました。

当日は生憎の雨天でしたが、朝9時過ぎから送り迎え係の高校生に連れられて各施設から順次子どもたちが到着、10時過ぎに、開会式が始まりました。午前中は中高部1号館にて各種ゲームに興じ、お昼にはコムセンターで本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。その後は第2体育館で、午後3時過ぎまで高校生と子どもたちが一体となり、しっぽ鬼や玉入れを楽しみました。そして閉会式を経て午後4時前には子どもたち全員が、高校生に付き添われて帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校の生徒たちにとっても最も楽しい行事の一つです。雨天にもかかわらず、満面の笑顔が絶えない、実に素敵な一日となったことに感謝して「報告」とさせていただきます。

なお、当日の引率教員は8名でした。

(高等学部自治会顧問)

2014年度 体育祭

今年度の体育祭は6月2日(火)に行われました。競技は6学年縦割りの6組で、競技以外にJ2以上が学年対抗で行うダンス(学年パフォーマンス)も行われました。昨年秋から、体育祭企画実行委員会を中心に体育部、縦割り組の組長、学年パフォーマンス委員がルール、練習時間などについて話し合いを重ねました。近年過熱傾向にあった練習を制限し、種目毎にローテーションで効率よく練習する方法に変更しました。また、「ムカデ競走」は足をつないで走るスタイルに変えるなど競技の変更もしました。

当日は、礼拝に引き続き、趣向を凝らした組の行進や組長の選手宣誓で幕を開けました。久々に復活した準備体操では、女学院生らしい元気の良さと、体育祭を楽しもうという笑顔が溢れていました。午前中は猛暑、午後からは曇り、閉会式から小雨が降るという天気でしたが、連日の猛暑に比べるとお天気にも恵まれました。競技は、綱引き、玉入れ、棒引き、200m競走、ムカデ競走、600mリレーといった定番競技以外に、ユニークな競技として登校競走、人生レース、DEKA☆パンレース、闘志みなぎる競技として棒上帽子争奪戦、騎馬戦が行われました。出場者だけでなく、応援でも大いに盛り上がりました。応援に来てくださった大勢の保護者の方々の声援も力になっていました。総合優勝はや組、学年パフォーマンス優勝はS2でした。多くの方々のご理解ご協力、を得て無事に終えられたことを心より感謝いたします。

(体育祭企画実行委員会顧問)

<課外活動紹介>

[クラブ]

Jサッカー部

今年度は新入生10名を迎え、現在部員30名で活動しています。中学女子サッカーには公式戦がないため、残念ながら活躍の機会はあまり多くはありませんが、近隣校との練習試合やOG戦などに向けて、日々練習に励んでいます。

部員の中には、非常にサッカーに熱心な者も多く、自分たちで試行錯誤を繰り返しつつ練習メニューを練り、向上心を持ちながら楽しく充実した部活動を行っています。放課後にグラウンドで活動していますので、ぜひ一度、元気な生徒たちの姿を見にいらしてください。

(Jサッカー部顧問)

[クラブ]

J美術部

J美術部は主に行事に向けて活動しています。愛校バザーでは、自分たちで作った作品を販売しています。文化祭では、夏休み中の合宿で描いた油絵と部員全員で作った共同制作を展示します。全員で協力して一つの作品を作り上げるのは大変ですが、完成した時の喜びと達成感もひとしおです。また、校外の展覧会にも作品を出品しています。J1からJ3まで8人いる部員はとても仲が良く、いつも笑いの絶えない明るいクラブです。日々お互いを高めあいながら活動しています。



[クラブ]

Sテニス部

Sテニス部は、4月末から5月下旬にかけての兵庫県総体を皮切りに、8月から10月にかけて行われる新人大会、阪神リーグ、そして夏季ジュニア、12月のウインタージュニア、3月の春季ジュニアと、様々な大会の団体戦・個人戦に向けて、練習に励んでいます。近年は兵庫県ベスト8入りすることも多く、部員同士切磋琢磨しつつも和気藹々と練習を重ねています。夏合宿は山陰へ出かけ、湖畔のコートで練習、春休みには岡田山ロッジで総体に向けて合宿し、懇親を深めています。

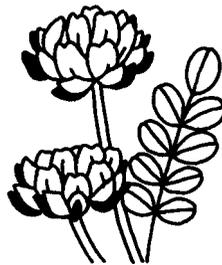
(Sテニス部顧問)

[クラブ]

Sコーラス部

6月にS3が引退し、現在の部員数は9名ですが、校内では文化祭でのコンサートの他、聖歌隊としての活動も行います。対外活動としては、阪神間の合唱部、吹奏楽部、オーケストラ部による親善音楽会、阪神間の合唱部によるジョイント・コンサート、灘高校グリー・クラブ定期演奏会に出演し、単独演奏の他に、混声合唱、オーケストラとの共演など、多岐にわたる活動の中、他校の部員と協力してコンサートを企画・実行するなど、得難い学びの場も与えられています。

(Sコーラス部顧問)



〈学院日誌〉

4月7日(月)	中高部教員会議	5月28日(水)	理事会 評議員会
4月8日(火)	中学部入学式		臨時理事会
4月9日(水)	高等学部入学式 中学部・高等学部始業式		理事会及び評議員会メンバーとの 懇談会
4月16日(水)	中高部教員会議	6月3日(火)	中高部体育祭
4月18日(金)	教授会	6月6日(金)・7日(土)	キリスト教学校教育同盟第102回 総会
4月23日(水)	理事会	6月11日(水)	中高部教員会議
4月30日(水)	中高部教員会議	6月20日(金)	教授会
5月14日(水)	中高部教員会議	6月25日(水)	理事会 神戸女学院教育振興会役員会 中高部教員会議
5月16日(金)	教授会		
5月20日(火)	中高部教員会議	7月10日(木)	中高部教員会議
5月22日(木)	創立者記念日 創立者記念日墓前礼拝	7月18日(金)	教授会
5月24日(土)	愛校バザー	7月23日(水)	理事会
		7月25日(金)	学院リトリート

目次

「重要文化財 神戸女学院」指定の答申を受けて…1	
—神戸女学院の建築群— 重要文化財指定の答申を受けて…3	
KCC だより ……4	
2014年度愛校バザー……6	
キリスト教学校同盟の総会開催……6	
新任のことば……7	
人事・学内人事・慶弔……17	
神戸女学院教育振興会寄付金・その他の寄付・現物寄付…18	
神戸女学院2013年度決算報告及び2014年度事業計画…19	
新刊・DVD・CD 紹介……23	
その他の新刊一覧……25	
史料室の窓・岡田山キャンパスに込められた思い(4)…26	
オフィスの宝物……27	
大学報告	
ロルフ・ブラッグ教授 ビアノリサイタル…28	
第7回心理相談室シンポジウム「つなく、結ぶ、親の心と子の心」開催…28	
音楽学科舞踊専攻公演……29	
人間科学研究科に理科教職課程が開設されました…29	
リベラルアーツ&サイエンスプログラムの設置…30	
新しい共通英語教育が始まりました……30	
カウンセリングルーム30周年記念特別講演会 葛田清一先生「弱さについて」…31	
大学春季宗教授強調日礼拝(創立者記念日礼拝)…31	
家庭会大学部会総会報告……32	
2014年度 大学・大学院入学試験結果概要…34	
2014年度 在籍学生数……34	
2013年度 就職決定状況……35	
2014年度 キャリアサポートプログラム(予定)…36	
2013年度 大学図書館報告……37	
受入れ留学生報告……38	

次

留学報告……38	
中期英語留学報告……39	
中期海外研修報告……39	
語学研修報告……40	
私の研究……42	
ゼミ紹介……43	
課外活動紹介……44	
中高部報告	
第8回全国高校生英語ディベート大会 in 長野 優勝チームメンバー 在日アメリカ大使を訪問…45	
スロベニア国際ディベート大会出場報告…45	
ヨーロッパ女子数学オリンピックの報告…46	
中高部図書室報告……47	
2014年度中学部入試結果報告……47	
2014年度中高部転・編入学試験結果報告…47	
2014年度中高部受け入れ留学生……48	
2013年度学校評価について……49	
中高部 P.T.A. 報告 ……51	
J1 デイキャンプ報告 ……53	
春の修養会報告 大阪水上隣保館訪問……53	
J1 春の遠足 ……54	
J2 春の遠足 ……54	
J3 春の遠足—鍋蓋山から再度公園へ— …55	
S1 春の遠足 ……55	
春の遠足 S2 ……56	
S3 春の遠足報告 ……56	
春の子ども会報告……57	
2014年度 体育祭……57	
課外活動紹介……58	
学院日誌……60	